

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5326054号
(P5326054)

(45) 発行日 平成25年10月30日 (2013. 10. 30)

(24) 登録日 平成25年7月26日 (2013. 7. 26)

(51) Int. Cl.

F I

A 6 1 B 1/00 (2006. 01)
G 0 2 B 23/24 (2006. 01)A 6 1 B 1/00 3 2 0 B
G 0 2 B 23/24 A

請求項の数 10 (全 32 頁)

(21) 出願番号 特願2012-543832 (P2012-543832)
 (86) (22) 出願日 平成23年6月17日 (2011. 6. 17)
 (86) 国際出願番号 PCT/JP2011/063944
 (87) 国際公開番号 W02012/137363
 (87) 国際公開日 平成24年10月11日 (2012. 10. 11)
 審査請求日 平成24年9月26日 (2012. 9. 26)
 (31) 優先権主張番号 61/473, 372
 (32) 優先日 平成23年4月8日 (2011. 4. 8)
 (33) 優先権主張国 米国 (US)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 304050923
 オリンパスメディカルシステムズ株式会社
 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
 (74) 代理人 100108855
 弁理士 蔵田 昌俊
 (74) 代理人 100109830
 弁理士 福原 淑弘
 (74) 代理人 100088683
 弁理士 中村 誠
 (74) 代理人 100103034
 弁理士 野河 信久
 (74) 代理人 100095441
 弁理士 白根 俊郎
 (74) 代理人 100075672
 弁理士 峰 隆司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 装着ユニット及び内視鏡

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長手軸に沿って延設されるとともに、挿入口から管腔に挿入される挿入本体であって、
 低強度外表面部と、前記低強度外表面部より摩擦に対する強度が高い高強度外表面部と、
 を備える挿入本体が設けられる内視鏡において、前記挿入本体に対して長手軸回り方向に
 回転制御可能な状態で前記挿入本体の外周方向側に取付けられる装着ユニットであって、

前記挿入本体の外周部又は前記挿入本体の前記外周部に取付けられる部材との間に隙間
 を有する状態で、前記長手軸に沿って延設されるチューブ本体と、

前記チューブ本体の外周部に前記長手軸に沿って螺旋状に延設されるフィン部と、

前記チューブ本体より基端方向側に設けられ、前記装着ユニットの基端が位置するチュ
 ーブ基端部であって、前記挿入本体の前記外周部又は前記挿入本体の前記外周部に取付け
 られる前記部材との間で、前記隙間をなくす又は前記隙間を前記チューブ本体の内周方向
 側の部位より減少させる基端側隙間減少部を備えるとともに、前記基端方向に向かうにつ
 れて外径が小さくなり、前記挿入本体が前記管腔に挿入された使用状態において前記挿入
 口より先端方向側に位置するチューブ基端部と、

を具備し、

前記装着ユニットが前記挿入本体に対して前記長手軸回り方向に回転制御可能に前記挿
 入本体の外周方向側に取付けられた状態において、前記低強度外表面部の前記外周方向側
 に前記チューブ本体が位置し、

前記装着ユニットが前記挿入本体に対して前記長手軸回り方向に回転制御可能に前記挿

10

20

入本体の外周方向側に取付けられた状態において、前記高強度外表面部の前記外周方向側に前記チューブ基端部が位置する、

装着ユニット。

【請求項 2】

前記チューブ本体より前記先端方向側に設けられ、前記装着ユニットの先端が位置するチューブ先端部であって、前記挿入部の前記外周部又は前記挿入部の前記外周部に取付けられる前記部材との間で、前記隙間をなくす又は前記隙間を前記チューブ本体の前記内周方向側の前記部位より減少させる先端側隙間減少部を備えるチューブ先端部を、さらに具備する請求項 1 の装着ユニット。

【請求項 3】

前記チューブ先端部及び前記チューブ基端部の少なくとも一方は、前記チューブ本体より軟らかい材料から形成される、請求項 2 の装着ユニット。

【請求項 4】

請求項 1 の装着ユニットと、

前記装着ユニットが前記長手軸回りに回転制御可能に取付けられる前記挿入本体と、を具備する、内視鏡。

【請求項 5】

前記挿入本体は、

前記長手軸に垂直な方向に外力が作用することにより湾曲する第 1 の管状部と、

前記第 1 の管状部より前記基端方向側に設けられ、前記長手軸に垂直な方向に外力が作用することにより湾曲する第 2 の管状部と、

前記外周方向側に前記チューブ基端部が位置し、前記第 1 の管状部と前記第 2 の管状部との間を接続する接続管部であって、前記第 1 の管状部及び前記第 2 の管状部より可撓性の低く、前記長手軸に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない接続管部と、

を備える、請求項 4 の内視鏡。

【請求項 6】

前記挿入本体に対して前記長手軸回りに前記装着ユニットと一体に回転可能な状態で前記接続管部に取付けられ、隙間がない状態で前記チューブ基端部が固定される回転体をさらに具備する、請求項 5 の内視鏡。

【請求項 7】

前記第 1 の管状部は、第 1 の蛇管部であり、

前記第 2 の管状部は、第 2 の蛇管部であり、

前記接続管部は、前記第 1 の蛇管部と前記第 2 の蛇管部との間を接続する蛇管接続部である、請求項 5 の内視鏡。

【請求項 8】

前記装着ユニットは、前記チューブ本体より前記先端方向側に設けられ、前記装着ユニットの先端が位置するチューブ先端部であって、前記挿入部の前記外周部又は前記挿入部の前記外周部に取付けられる前記部材との間で、前記隙間をなくす又は前記隙間を前記チューブ本体の前記内周方向側の前記部位より減少させる先端側隙間減少部を備えるチューブ先端部を、備え、

前記内視鏡は、

前記挿入本体に対して前記長手軸回りに前記装着ユニットと一体に回転可能な状態で設けられ、隙間がない状態で前記チューブ先端部が固定される第 1 の回転体、及び、

前記挿入本体に対して前記長手軸回りに前記装着ユニットと一体に回転可能な状態で設けられ、隙間がない状態で前記チューブ基端部が固定される第 2 の回転体、

の少なくともいずれか一方をさらに備える、請求項 4 の内視鏡。

【請求項 9】

前記挿入本体に対して前記長手軸回りに前記装着ユニットと一体に回転可能な状態で前記高強度外表面部に取付けられ、隙間がない状態で前記チューブ基端部が固定される回転体をさらに具備する、請求項 4 の内視鏡。

10

20

30

40

50

【請求項 10】

前記挿入本体は、

前記長手軸に垂直な方向に外力が作用することにより湾曲する第 1 の管状部と、

前記第 1 の管状部より前記基端方向側に設けられ、前記長手軸に垂直な方向に外力が作用することにより湾曲する第 2 の管状部と、

前記高強度外表面部が位置し、前記第 1 の管状部と前記第 2 の管状部との間を接続する接続管部であって、前記第 1 の管状部及び前記第 2 の管状部より可撓性の低く、前記長手軸に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない接続管部と、

を備える請求項 4 の内視鏡。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明は、管腔（lumen）に挿入される挿入部を備える内視鏡及びこの内視鏡に装着される装着ユニットに関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、管腔に挿入される挿入部と、挿入部に対して長手軸回りに回転可能な装着ユニットと、を備える内視鏡が開示されている。装着ユニットは、チューブ本体と、チューブ本体の外周部に長手軸に沿って螺旋状に設けられるフィン部（fin portion）と、を備える。また、挿入部の外周部には、リング状の回転体が挿入部に対して長手軸回りに回転可能に取付けられている。回転体には、装着ユニットが固定された状態で取付けられている。このため、回転体が回転することにより、装着ユニットは回転体と一体に挿入部に対して長手軸回りに回転する。また、長手軸に平行な方向について回転体が位置しない箇所では、装着ユニットと挿入部の外周部との間に隙間が設けられ、装着ユニットの挿入部に対する回転性を向上させている。このため、装着ユニットの先端及び基端では、装着ユニットと挿入部の外周部との間に隙間を有する。

20

【0003】

以上のような構成にすることにより、内視鏡の挿入部が小腸（small intestine）の内部、大腸（large intestine）の内部等の管腔に挿入された際には、管腔壁（paries）に装着ユニットのフィン部が当接する。この状態で、回転体及び装着ユニットを挿入部に対して回転させることにより、長手軸に平行な方向への推進力（propulsive force）が挿入部に作用する。推進力により、管腔での内視鏡の挿入部の挿入性が向上する。

30

【0004】

また、特許文献 2 の内視鏡では、回転ギアがギア軸回りに回転することにより、装着ユニットが回転体とともに長手軸回りに回転する。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】米国特許出願公開 2010/0076264 号明細書

【特許文献 2】米国特許出願公開 2010/0069718 号明細書

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

前記特許文献 1 及び前記特許文献 2 の内視鏡では、装着ユニットの先端及び基端において、装着ユニットと挿入部の外周部との間に隙間を有する。このため、回転体及び装着ユニットを挿入部に対して回転させた際に、装着ユニットと挿入部の外周部との間で管腔壁が挟まれる可能性がある。装着ユニットと挿入部の外周部との間に管腔壁が挟まることにより、挿入部の挿入性が低下するとともに、患者の負担が大きくなる。

【0007】

本発明は前記課題に着目してなされたものであり、その目的とするところは、挿入部に対

50

する装着ユニットの回転によって発生する推進力により挿入部の挿入性が向上するとともに、挿入部と装着ユニットとの間に管腔壁が挟まれることが有効に防止される装着ユニット及び内視鏡を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

前記目的を達成するため、本発明のある態様は、長手軸に沿って延設されるとともに、挿入部から管腔に挿入される挿入本体であって、低強度外表面部と、前記低強度外表面部より摩擦に対する強度が高い高強度外表面部と、を備える挿入本体が設けられる内視鏡において、前記挿入本体に対して長手軸回り方向に回転可能な状態で前記挿入本体の外周方向側に取付けられる装着ユニットであって、前記挿入本体の外周部又は前記挿入本体の前記外周部に取付けられる部材との間に隙間を有する状態で、前記長手軸に沿って延設されるチューブ本体と、前記チューブ本体の外周部に前記長手軸に沿って螺旋状に延設されるフィン部と、前記チューブ本体より基端方向側に設けられ、前記装着ユニットの基端が位置するチューブ基端部であって、前記挿入本体の前記外周部又は前記挿入本体の前記外周部に取付けられる前記部材との間で、前記隙間をなくす又は前記隙間を前記チューブ本体の内周方向側の部位より減少させる基端側隙間減少部を備えるとともに、前記基端方向に向かうにつれて外径が小さくなり、前記挿入本体が前記管腔に挿入された使用状態において前記挿入部より先端方向側に位置するチューブ基端部と、を備え、前記装着ユニットが前記挿入本体に取付けられた状態において、前記低強度外表面部の前記外周方向側に前記チューブ本体が位置し、前記装着ユニットが前記挿入本体に取付けられた状態において、前記高強度外表面部の前記外周方向側に前記チューブ基端部が位置する。

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、挿入部に対する装着ユニットの回転によって発生する推進力により挿入部の挿入性が向上するとともに、挿入部と装着ユニットとの間に管腔壁が挟まれることが有効に防止される装着ユニット及び内視鏡を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の第1の実施形態に係る内視鏡を示す概略図。

【図2】第1の実施形態に係る内視鏡の操作部の図1とは反対側の側面を示す概略図。

【図3】第1の実施形態に係る内視鏡の受動湾曲部の近傍での挿入部及び装着ユニットの構成を概略的に示す断面図。

【図4】第1の実施形態に係る内視鏡の蛇管接続部の近傍での挿入部及び装着ユニットの構成を概略的に示す断面図。

【図5】図4のV-V線断面図。

【図6】第1の実施形態に係る装着ユニットのフィン部に長手軸に平行な方向への外力が作用した状態を概略的に示す断面図。

【図7】第1の実施形態の第1の変形例に係る内視鏡の湾曲管接続部の近傍での挿入部及び装着ユニットを示す概略図。

【図8】第1の実施形態の第2の変形例に係る内視鏡の挿入部及び装着ユニットを示す概略図。

【図9A】第1の実施形態の第3の変形例に係る内視鏡の第1の蛇管部の近傍での挿入部及び装着ユニットを一部断面で示す概略図。

【図9B】第1の実施形態の第3の変形例に係る内視鏡の操作部を示す概略図。

【図10】第1の実施形態の第4の変形例に係る内視鏡の挿入部に取付け可能な2種類の装着ユニットを示す概略図。

【図11】第1の実施形態の第5の変形例に係る内視鏡の装着ユニットを示す概略図。

【図12】第1の実施形態の第6の変形例に係る内視鏡の挿入部及び装着ユニットを示す概略図。

【図13】第1の実施形態の第7の変形例に係る内視鏡の装着ユニットを概略的に示す断

10

20

30

40

50

面図。

【図 1 4】本発明の第 2 の実施形態に係る内視鏡の操作部の部材挿入部を示す概略図。

【図 1 5】第 2 の実施形態に係る内視鏡の操作部の部材挿入部にモータが装着された状態を概略的に示す断面図。

【図 1 6】第 2 の実施形態の第 1 の変形例に係る内視鏡のギアユニットと駆動ユニットとの接続状態を示す概略図。

【図 1 7】本発明の第 3 の実施形態に係る内視鏡の受動湾曲部の近傍での挿入部及び装着ユニットの構成を概略的に示す断面図。

【図 1 8】第 3 の実施形態に係る内視鏡の蛇管接続部の近傍での挿入部及び装着ユニットの構成を概略的に示す断面図。

10

【図 1 9】第 3 の実施形態の第 1 の変形例に係る内視鏡の受動湾曲部の近傍での挿入部及び装着ユニットの構成を概略的に示す断面図。

【図 2 0】第 3 の実施形態の第 2 の変形例に係る内視鏡の挿入部及び装着ユニットを示す概略図。

【図 2 1】本発明の第 4 の実施形態に係る内視鏡の蛇管接続部の近傍での挿入部及び装着ユニットの構成を概略的に示す断面図。

【図 2 2】図 2 1 の 2 2 - 2 2 線断面図。

【図 2 3】第 4 の実施形態の第 1 の変形例に係る内視鏡の操作部の部材挿入部を示す概略図。

【図 2 4】図 2 3 の 2 4 - 2 4 線断面図。

20

【発明を実施するための形態】

【0011】

(第 1 の実施形態)

本発明の第 1 の実施形態について図 1 乃至図 6 を参照して説明する。図 1 は、第 1 の実施形態に係る内視鏡 1 を示す図である。図 1 に示すように、内視鏡 1 は、挿入部 2 と、挿入部 2 より基端方向側に設けられる操作部 3 とを備える。挿入部 2 は、小腸の内部、大腸の内部等の管腔に挿入される。操作部 3 には、ユニバーサルケーブル 4 の一端が接続されている。ユニバーサルケーブル 4 の他端には、スコープコネクタ 5 が設けられている。スコープコネクタ 5 は、画像プロセッサ等の画像処理ユニット 7 に接続されている。また、スコープコネクタ 5 にはライトガイドチューブ 8 の一端が接続されている。ライトガイドチューブ 8 の他端は、光源ユニット 9 に接続されている。

30

【0012】

画像処理ユニット 7 及び光源ユニット 9 は、内視鏡 1 のシステム全体を制御するパーソナルコンピュータ等の制御ユニット 10 に電氣的に接続されている。また、制御ユニット 10 には、モニタ等の表示ユニット 11 及びキーボード、マウス等の入力ユニット 12 が電氣的に接続されている。

【0013】

挿入部 2 は、長手軸 C に沿って延設される細長い (elongated) 挿入本体 13 を備える。挿入本体 13 は、最も先端方向側に設けられる先端硬性部 15 と、先端硬性部 15 より基端方向側に設けられる能動湾曲部 (active bending portion) 16 と、能動湾曲部 16 より基端方向側に設けられ、外力の作用を受けて受動的に湾曲する受動湾曲部 (passive bending portion) 17 と、受動湾曲部 17 より基端方向側に設けられる第 1 の蛇管部 (first flexible portion) 18 と、第 1 の蛇管部 18 より基端方向側に設けられる第 2 の蛇管部 19 と、を備える。能動湾曲部 16 と受動湾曲部 17 との間は、湾曲管接続部 21 により接続されている。また、受動湾曲部 17 と第 1 の蛇管部 18 との間は、中継接続部 22 により接続されている。さらに、第 1 の蛇管部 18 と第 2 の蛇管部 19 との間は、蛇管接続部 23 により接続されている。

40

【0014】

挿入部 2 の外周方向側には、装着ユニット 25 が設けられている。装着ユニット 25 は、挿入本体 13 に対して長手軸 C 回りに回転可能な状態で、挿入部 2 に取付けられている

50

。装着ユニット２５は、長手軸Ｃに沿って延設されるチューブ本体２６と、チューブ本体２６の外周部に長手軸Ｃに沿って螺旋状に延設されるフィン部２７とを備える。装着ユニット２５には、先端から基端方向に向かってチューブ先端部２８が設けられている。また、装着ユニット２５には、基端から先端方向に向かってチューブ基端部２９が設けられている。

【００１５】

図２は、操作部３の図１とは反対側の側面を示す図である。図２に示すように、操作部３の外表面には、能動湾曲部１６の湾曲操作が入力される湾曲操作入力部である湾曲操作ノブ３１が設けられている。操作部３の内部では、湾曲操作ノブ３１に湾曲ワイヤ（図示しない）の一端が接続されている。湾曲ワイヤは、挿入本体１３（挿入部２）の内部に長手軸Ｃに沿って延設され、他端が能動湾曲部１６の先端部に接続されている。湾曲操作ノブ３１での湾曲操作により、湾曲ワイヤが牽引されることにより能動湾曲部１６は湾曲される。また、受動湾曲部１７は、外力が直接的に作用したり、能動湾曲部１６を介して間接的に外力が作用したりすることにより、受動的に湾曲する。例えば、長手軸Ｃに垂直な方向への外力が受動湾曲部１７に作用すると、受動湾曲部１７は湾曲する。また、湾曲された能動湾曲部１６に長手軸Ｃに垂直な方向への外力が作用すると、受動湾曲部１７にも能動湾曲部１６を介して外力が作用し、受動湾曲部１７は湾曲する。

【００１６】

図３は、受動湾曲部１７の近傍での挿入部２及び装着ユニット２５の構成を示す図である。また、図４は、蛇管接続部２３の近傍での挿入部２及び装着ユニット２５の構成を示す図である。図３及び図４に示すように、挿入本体１３（挿入部２）の内部には、撮像ケーブル、ライトガイドチューブ等の複数の内蔵延設部材３３が長手軸Ｃに沿って延設されている。内蔵延設部材３３は、挿入部２の先端部に設けられる先端硬性部１５から挿入本体１３（挿入部２）の内部及び操作部３の内部を通して、延設されている。

【００１７】

先端硬性部１５の内部には、被写体を撮像する撮像素子（図示しない）が設けられている。撮像素子には、内蔵延設部材３３の１つである撮像ケーブルの一端が接続されている。撮像ケーブル（３３）は、挿入本体１３（挿入部２）の内部、操作部３の内部、ユニバーサルケーブル４の内部を通して、スコープコネクタ５を介して画像処理ユニット７に接続されている。内蔵延設部材３３の１つであるライトガイドチューブは、挿入本体１３（挿入部２）の内部、操作部３の内部、ユニバーサルケーブル４の内部を通して、スコープコネクタ５を介してライトガイドチューブ８に接続されている。光源ユニット９からの出射光は、ライトガイドチューブ８の内部、内蔵延設部材３３であるライトガイドチューブの内部を通して、先端硬性部１５に導光される。そして、先端硬性部１５に設けられる照明窓（図示しない）から、被写体に光が照射される。

【００１８】

図２に示すように、操作部３の外表面には、鉗子等の処置具が挿入される処置具挿入口３５を規定する処置具挿入部３６が設けられている。内蔵延設部材３３の１つである処置具チャンネルチューブは、挿入本体１３（挿入部２）の内部、操作部３の内部を通して、処置具挿入部３６に接続されている。これにより、処置具チャンネルチューブ（３３）の内部の処置具チャンネルが、処置具挿入口３５で開口する。また、処置具チャンネルは、先端硬性部１５に設けられる開口部（図示しない）で開口している。したがって、処置具挿入口３５から挿入された処置具は、処置具チャンネルを通して、先端硬性部１５の開口部から先端方向に突出する。そして、処置具が開口部から突出した状態で、処置具による処置が行われる。

【００１９】

図３及び図４に示すように、能動湾曲部１６から第１の蛇管部１８に渡る範囲において、内蔵延設部材３３の周囲に被覆された状態で保護チューブ３７が設けられている。保護チューブ３７の基端は、蛇管接続部２３より先端方向側に位置している。能動湾曲部１６及び受動湾曲部１７（湾曲部）が湾曲した際には、保護チューブ３７により内蔵延設部材

10

20

30

40

50

３３に作用する外力から内蔵延設部材３３が保護されている。なお、内蔵延設部材３３の中で撮像ケーブル及びライトガイドチューブには、保護チューブ３７を被覆することが好ましい。ただし、処置具チャンネルチューブは、撮像ケーブル及びライトガイドチューブより強度が高く、かつ、大径である。このため、処置具チャンネルチューブには保護チューブ３７を被覆せず、挿入本体１３の内部でのスペースを確保することが好ましい。

【００２０】

図３に示すように、能動湾曲部１６には、複数の金属製の第１の節輪４１が設けられている。それぞれの第１の節輪４１は、隣接する第１の節輪４１に対して回動可能に連結されている。最も先端方向側に位置する第１の節輪（４１ａ）には、前述した湾曲ワイヤ（図示しない）の先端が固定されている。湾曲ワイヤが牽引された際には、長手軸Ｃに垂直な方向へ作用する外力により、第１の節輪４１が隣接する第１の節輪４１に対して回動し、能動湾曲部１６が湾曲する。

10

【００２１】

また、受動湾曲部１７には、複数の金属製の第２の節輪４２が設けられている。それぞれの第２の節輪４２は、隣接する第２の節輪４２に対して回動可能に連結されている。それぞれの第２の節輪４２には、湾曲ワイヤを支持するワイヤガイドが設けられていない。長手軸Ｃに垂直な方向へ作用する外力により、第２の節輪４２が隣接する第２の節輪４２に対して回動し、受動湾曲部１７が湾曲する。

【００２２】

最も先端方向側に位置する第２の節輪４２ａには、最も基端方向側に位置する第１の節輪４１ｂが嵌合状態で固定されている。第１の節輪４１ｂと第２の節輪４２ａとの間が固定されることにより、能動湾曲部１６と受動湾曲部１７との間に湾曲管接続部２１が形成される。湾曲管接続部２１では、第１の節輪４１ｂと第２の節輪４２ａとの間が固定され、第１の節輪４１ｂ及び第２の節輪４２ａにより形成される金属部分の肉厚が大きくなる。このため、湾曲管接続部２１は、能動湾曲部１６及び受動湾曲部１７より可撓性が低く、長手軸Ｃに垂直な方向へ作用する外力によって湾曲しない。

20

【００２３】

第１の節輪４１及び第２の節輪４２の外周方向側には、金属製の湾曲部網状管（湾曲部ブレード）４３が被覆されている。湾曲部網状管４３の外周方向側には、湾曲部外皮４５が被覆されている。湾曲部外皮４５は、例えばフッ素ゴムから形成されている。

30

【００２４】

以上のような構成にすることにより、能動湾曲部１６が第１の管状部となり、受動湾曲部１７が第１の管状部より基端方向側に設けられる第２の管状部となる。第１の管状部（１６）及び第２の管状部（１７）は、長手軸Ｃに垂直な方向に外力が作用することにより湾曲する。また、湾曲管接続部２１が、第１の管状部（１６）と第２の管状部（１７）との間を接続する第１の接続管部となる。第１の接続管部（２１）は、第１の管状部（１６）及び第２の管状部（１７）より可撓性の低く、長手軸Ｃに垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。

【００２５】

図３及び図４に示すように、第１の蛇管部１８には、金属製の第１の螺旋管（第１のフレックス）４７が設けられている。第１の螺旋管４７の外周方向側には、金属製の第１の蛇管部網状管（第１の蛇管部ブレード）４８が被覆されている。第１の蛇管部網状管４８の外周方向側には、第１の蛇管部外皮４９が被覆されている。第１の蛇管部外皮４９は、例えばポリウレタンとポリエステルの混合樹脂等の、湾曲部外皮４５より可撓性の低い材料から形成されている。また、第１の螺旋管４７は、複数の第１の節輪４１の連結体及び複数の第２の節輪４２の連結体に比べ、外力が作用した際の湾曲性が低下する。したがって、第１の蛇管部１８は、能動湾曲部１６及び受動湾曲部１７より可撓性が低くなる。ただし、第１の蛇管部１８は、長手軸Ｃに垂直な方向に作用する外力によって湾曲する程度の可撓性を有する状態で設けられている。

40

【００２６】

50

第1の螺旋管47及び第1の蛇管部網状管48には、最も基端方向側に位置する第2の節輪42bが嵌合状態で固定されている。第2の節輪42bと第1の螺旋管47及び第1の蛇管部網状管48との間が固定されることにより、受動湾曲部17と第1の蛇管部18との間に中継接続部22が形成される。中継接続部22では、第2の節輪42bと第1の螺旋管47及び第1の蛇管部網状管48との間が固定され、第2の節輪42b、第1の螺旋管47及び第1の蛇管部網状管48により形成される金属部分の肉厚が大きくなる。このため、中継接続部22は、受動湾曲部17及び第1の蛇管部18より可撓性が低く、長手軸Cに垂直な方向へ作用する外力によって湾曲しない。

【0027】

また、中継接続部22には、湾曲部外皮45の基端及び第1の蛇管部外皮49の先端が位置している。湾曲部外皮45と第1の蛇管部外皮49の間では、第1の蛇管部外皮49及び湾曲部外皮45に係51が巻回されるとともに、接着剤52が被覆されている。

【0028】

図4に示すように、第2の蛇管部19は、第1の蛇管部18と同様の構成である。したがって、第2の蛇管部19には、金属製の第2の螺旋管(第2のフレックス)53が設けられている。第2の螺旋管53の外周方向側には、金属製の第2の蛇管部網状管(第2の蛇管部ブレード)55が被覆されている。第2の蛇管部網状管55の外周方向側には、第2の蛇管部外皮57が被覆されている。第2の蛇管部外皮57は、例えばポリウレタンとポリエステルの混合樹脂等の、湾曲部外皮45より可撓性の低い材料から形成されている。また、第2の螺旋管53は、複数の第1の節輪41の連結体及び複数の第2の節輪42の連結体に比べ、外力が作用した際の湾曲性が低下する。したがって、第2の蛇管部19は、能動湾曲部16及び受動湾曲部17より可撓性が低くなる。ただし、第2の蛇管部19は、長手軸Cに垂直な方向に作用する外力によって湾曲する程度の可撓性を有する状態で設けられている。

【0029】

第1の蛇管部18と第2の蛇管部19との間の蛇管接続部23には、金属製の接続口金58が設けられている。接続口金58は、第1の螺旋管47、第1の蛇管部網状管48及び第1の蛇管部外皮49に嵌合状態で固定されている。また、接続口金58は、第2の螺旋管53、第2の蛇管部網状管55及び第2の蛇管部外皮57に、嵌合及び固定ネジ59により、固定されている。接続口金58の肉厚は、第1の螺旋管47の肉厚及び第2の螺旋管53の肉厚より大きい。また、接続口金58は、第1の螺旋管47及び第2の螺旋管53に比べ、可撓性が低い。このため、蛇管接続部23は、第1の蛇管部18及び第2の蛇管部19より可撓性が低く、長手軸Cに垂直な方向へ作用する外力によって湾曲しない。

【0030】

以上のような構成にすることにより、第1の蛇管部18が第2の管状部である受動湾曲部17より基端方向側に設けられる第3の管状部となり、第2の蛇管部19が第3の管状部より基端方向側に設けられる第4の管状部となる。第3の管状部(18)及び第4の管状部(19)は、長手軸Cに垂直な方向に外力が作用することにより湾曲する。また、蛇管接続部23が、第3の管状部(18)と第4の管状部(19)との間を接続する第2の接続管部となる。第2の接続管部(23)は、第3の管状部(18)及び第4の管状部(19)より可撓性の低く、長手軸Cに垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。

【0031】

図4に示すように、接続口金58には、弾性部材62を介して回転体(第2の回転体)61が取付けられている。回転体61は、挿入本体13に対して長手軸C回りに装着ユニット25と一体に回転可能な状態で、挿入本体13の蛇管接続部23(第2の接続管部)に取付けられている。また、弾性部材62により、回転体61と接続口金58との間が水密に保たれている。

【0032】

また、接続口金58には、回転ギア63が取付けられている。回転ギア63は、ギア軸

10

20

30

40

50

R 回りに回転可能である。回転ギア 6 3 は、挿入本体 1 3 の接続口金 5 8 の外周部で、かつ、挿入部 2 の回転体 6 1 の内部に位置している。すなわち、回転体 6 1 と接続口金 5 8 との間に、回転ギア 6 3 が位置するギア配置空洞 6 4 が形成されている。ここで、弾性部材 6 2 によって回転体 6 1 と接続口金 5 8 との間を水密に保つことにより、ギア配置空洞 6 4 への挿入部 2 の外部からの液体の流入が防止されている。したがって、内蔵延設部材 3 3 が設けられる挿入本体 1 3 の内部への液体の流入が防止される。

【 0 0 3 3 】

図 5 は、図 4 の V - V 線断面図である。図 5 に示すように、回転体 6 1 の内周部には、回転ギア 6 3 と噛合うギア部 6 5 が設けられている。これにより、回転ギア 6 3 がギア軸 R 回りの回転に対応して、回転体 6 1 が長手軸 C 回りに回転する。また、回転ギア 6 3 及び回転体 6 1 のギア部 6 5 と挿入本体 1 3 の内部の内蔵延設部材 3 3 との間は、接続口金 5 8 により分離されている。すなわち、接続口金 5 8 が、回転ギア 6 3 及び回転体 6 1 のギア部 6 5 と内蔵延設部材 3 3 との間を分離する仕切り部材となっている。これにより、回転ギア 6 3 及びギア部 6 5 と内蔵延設部材 3 3 との接触が防止される。

【 0 0 3 4 】

また、内蔵延設部材 3 3 に被覆される保護チューブ 3 7 の基端は、回転ギア 6 3 が取付けられる蛇管接続部 2 3 より先端方向側に位置している。すなわち、保護チューブ 3 7 の基端は、回転ギア 6 3 より先端方向側に位置している。蛇管接続部 2 3 には、装着ユニット 2 5 を回転させる部材である回転ギア 6 3、回転体 6 1 等が取付けられる。このため、蛇管接続部 2 3 (接続口金 5 8) の内径は、受動湾曲部 1 7 の内径、第 1 の蛇管部 1 8 の内径等に比べて、小さい。そこで、内蔵延設部材 3 3 に被覆される保護チューブ 3 7 の基端を蛇管接続部 2 3 より先端方向側に位置させることにより、蛇管接続部 2 3 の内部でのスペースを確保している。なお、前述のように第 1 の蛇管部 1 8 及び第 2 の蛇管部 1 9 (蛇管部) は、能動湾曲部 1 6 及び受動湾曲部 1 7 (湾曲部) に比べ可撓性が低い。このため、蛇管部 (1 8 , 1 9) の内部は、湾曲部 (1 6 , 1 7) の内部に比べ、湾曲した際に内蔵延設部材 3 3 に作用する外力が小さくなる。したがって、蛇管部 (1 8 , 1 9) の内部では、内蔵延設部材 3 3 に保護チューブ 3 7 を被覆する必要はない。

【 0 0 3 5 】

図 4 に示すように、接続口金 5 8 には、金属製の接続パイプ 6 7 が取付けられている。接続パイプ 6 7 には、チャンネルチューブ 6 8 が接続されている。チャンネルチューブ 6 8 は、挿入本体 1 3 (挿入部 2) の内部を長手軸 C に沿って、基端方向に延設されている。なお、チャンネルチューブ 6 8 は、内蔵延設部材 3 3 の 1 つである処置具チャンネルチューブとは異なるチャンネルチューブ (6 8) である。

【 0 0 3 6 】

図 1 に示すように、操作部 3 の外表面には、部材挿入口 7 1 を規定する部材挿入部 (装着部) 7 2 が設けられている。チャンネルチューブ 6 8 は、挿入本体 1 3 (挿入部 2) の内部、操作部 3 の内部を通して、部材挿入部 7 2 に接続されている。これにより、チャンネルチューブ 6 8 の内部のチャンネル 7 3 が、部材挿入口 7 1 で開口する。また、図 4 に示すように、チャンネル 7 3 は、チャンネルチューブ 6 8 の内部から接続パイプ 6 7 の内部を通して、ギア配置空洞 6 4 まで延設されている。以上のようにして、操作部 3 の外表面の部材挿入口 7 1 から、操作部 3 の内部、挿入部 2 の内部を通して、ギア配置空洞 6 4 までチャンネル 7 3 が延設されている。すなわち、部材挿入部 7 2、チャンネルチューブ 6 8 及び接続パイプ 6 7 がチャンネル 7 3 を規定するチャンネル規定部となっている。

【 0 0 3 7 】

図 1 に示すように、部材挿入部 7 2 には、部材挿入口 7 1 から挿入された駆動部材であるモータ 7 5 が取付けられている。すなわち、部材挿入部 7 2 が、モータ 7 5 が取付けられる装着部となる。モータ 7 5 には、モータケーブル 7 6 の一端が接続されている。モータケーブル 7 6 の他端は、制御ユニット 1 0 に接続されている。制御ユニット 1 0 は、モータ 7 5 の回転駆動を制御するモータ制御部 7 7 を備える。また、操作部 3 の外表面には、モータ 7 5 の回転操作を入力する回転操作入力部である回転操作入力スイッチ 7 8 が設

けられている。回転操作入力スイッチ 78 は、ユニバーサルケーブル 4 の内部の電気信号線等を介して、モータ制御部 77 と電氣的に接続されている。また、回転操作入力スイッチ 78 は、第 1 の押圧部 81 と、第 1 の押圧部 81 より基端方向側に位置する第 2 の押圧部 82 とを備える。

【0038】

また、図 1 及び図 4 に示すように、モータ 75 と回転ギア 63 との間は、ワイヤ等の線状部材 83 により接続されている。線状部材 83 は、チャンネル 73 に沿って延設されている。モータ 75 の回転駆動により、ギア軸 R 回りに線状部材 83 が回転し、回転ギア 63 が回転する。

【0039】

以上のような構成にすることにより、回転操作入力スイッチ 78 の第 1 の押圧部 81 を押圧した際には、モータ制御部 77 によりモータ 75 が基端方向から見て反時計回りに回転駆動される。これにより、線状部材 83 及び回転ギア 63 が基端方向から見て反時計回りに回転する。回転ギア 63 が反時計回りに回転することにより、基端方向から見て時計回りに長手軸 C を中心として回転体 61 が回転する。一方、回転操作入力スイッチ 78 の第 1 の押圧部 81 を押圧した際には、モータ制御部 77 によりモータ 75 が基端方向から見て時計回りに回転駆動される。これにより、線状部材 83 及び回転ギア 63 が基端方向から見て時計回りに回転する。回転ギア 63 が時計回りに回転することにより、基端方向から見て反時計回りに長手軸 C を中心として回転体 61 が回転する。

【0040】

図 4 に示すように、蛇管接続部 23 の接続口金 58 には、牽引ワイヤ 85 が固定されている。また、図 1 に示すように、操作部 3 の外表面には、第 2 の蛇管部 19 の可撓性を变化させる操作を行う可撓性調整部である可撓性調整ノブ 87 が設けられている。牽引ワイヤ 85 の基端は、操作部 3 の内部で可撓性調整ノブ 87 に接続されている。可撓性調整ノブでの操作により、牽引ワイヤ 85 は基端方向に牽引される。

【0041】

また、図 4 に示すように、第 2 の蛇管部 19 の内部には、牽引ワイヤ 85 が挿通されるコイルパイプ 89 が設けられている。コイルパイプ 89 の先端は、口ウ付け等により牽引ワイヤ 85 に固定されている。また、コイルパイプ 89 の先端は、装着ユニット 25 の基端より基端方向側に位置している。コイルパイプ 89 の基端は、第 2 の蛇管部 19 の基端より基端方向側で、操作部 3 の内周部に固定されている。牽引ワイヤ 85 が牽引された際には、長手軸 C に平行な方向への圧縮力がコイルパイプ 89 に作用する。圧縮力が作用することにより、コイルパイプ 89 の硬度が高くなり、第 2 の蛇管部 19 の可撓性が低下する。

【0042】

図 1 及び図 3 に示すように、装着ユニット 25 のチューブ先端部 28 は、第 1 の接続管部である湾曲管接続部 21 の外周方向側に位置している。また、図 1 及び図 4 に示すように、装着ユニット 25 のチューブ基端部 29 は、第 2 の接続管部である蛇管接続部 23 の外周方向側に位置している。そして、チューブ先端部 28 とチューブ基端部 29 との間で、チューブ本体 26 が長手軸 C に沿って延設されている。以上のような構成にすることにより、湾曲管接続部 21 の外周方向側の位置から蛇管接続部 23 の外周方向側の位置まで、装着ユニット 25 が長手軸 C に沿って延設される。すなわち、装着ユニット 25 の一部が受動湾曲部 17 の外周方向側に位置している。

【0043】

チューブ本体 26 は、ポリウレタン等の樹脂から形成されている。チューブ本体 26 は、湾曲部外皮 45 又は第 1 の蛇管部外皮 49 との間に隙間 90 を有する。すなわち、チューブ本体 26 は、挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材（例えば接着剤 52）との間の隙間 90 を有する状態で設けられている。

【0044】

チューブ先端部 28 は、例えばゴム等のチューブ本体 26 より軟らかい材料から形成さ

10

20

30

40

50

れている。このため、図 3 に示すように、チューブ先端部 28 の内周部には、装着ユニット 25 と湾曲部外皮 45 との間で、隙間 90 をなくす又は隙間 90 をチューブ本体 26 の内周方向側の部位より減少させる先端側隙間減少部 91 が、形成される。先端側隙間減少部 91 により、装着ユニット 25 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 90 がなくなる、又は、隙間 90 がチューブ本体 26 の内周方向側の部位より減少する。また、チューブ先端部 28 の外周部とチューブ本体 26 の先端部の外周部との間の連結部は、段差、隙間等がない状態で面状に連続している。そして、チューブ先端部 28 及びチューブ本体 26 の先端部では、外径が先端方向に向かうにつれて小さくなる。このような構成にすることにより、チューブ先端部 28 とチューブ本体 26 の先端部との間の連結部に管腔壁が挟まれることが、有効に防止される。

10

【0045】

なお、先端側隙間減少部 91 では、先端方向に向かうにつれてチューブ先端部 28 の内径が小さくなり、先端方向に向かうにつれて隙間 90 が減少する。また、先端側隙間減少部 91 では、隙間 90 がなくなる、又は、隙間 90 がチューブ本体 26 の内周方向側の部位より減少するだけであり、装着ユニット 25 と湾曲部外皮 45 との間が水密に保たれているわけではない。

【0046】

チューブ基端部 29 は、例えばゴム等のチューブ本体 26 より軟らかい材料から形成されている。このため、図 4 及び図 5 に示すように、チューブ基端部 29 の内周部には、装着ユニット 25 と接続口金 58 又は回転体 61 との間で、隙間 90 をなくす又は隙間 90 をチューブ本体 26 の内周方向側の部位より減少させる基端側隙間減少部 92 が、設けられる。基端側隙間減少部 92 により、装着ユニット 25 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 90 がなくなる、又は、隙間 90 がチューブ本体 26 の内周方向側の部位より減少する。また、基端側隙間減少部 92 により、挿入部 2 の回転体（第 2 の回転体）61 に隙間 90 がない状態でチューブ基端部 29 が固定されている。したがって、回転体 61 が回転することにより、装着ユニット 25 が回転体 61 と一体に挿入本体 13 に対して長手軸 C 回りに回転する。また、チューブ基端部 29 の外周部とチューブ本体 26 の基端部の外周部との間の連結部は、段差、隙間等がない状態で面状に連続している。このような構成にすることにより、チューブ基端部 29 とチューブ本体 26 の基端部との間の連結部に管腔壁が挟まれることが、有効に防止される。

20

30

【0047】

なお、基端側隙間減少部 92 では、基端方向に向かうにつれてチューブ基端部 29 の内径が小さくなり、基端方向に向かうにつれて隙間 90 が減少する。また、基端側隙間減少部 92 では、隙間 90 がなくなる、又は、隙間 90 がチューブ本体 26 の内周方向側の部位より減少するだけであり、装着ユニット 25 と接続口金 58 又は回転体 61 との間が水密に保たれているわけではない。

【0048】

チューブ本体 26 の外周部に延設されるフィン部 27 は、ゴム等から形成されている。フィン部 27 は、チューブ本体 26 に接着、溶着等により固定されている。図 1 に示すように、フィン部 27 は、基端方向から視て時計回りの螺旋状に延設されている。また、フィン部 27 は、長手軸 C に対する鋭角 θ が 45° より大きくなる状態で、延設されている。内視鏡 1 の挿入部 2 が小腸の内部、大腸の内部等の管腔に挿入された際には、管腔壁に装着ユニット 25 のフィン部 27 が当接する。この状態で、回転体 61 及び装着ユニット 25 を挿入本体 13 に対して長手軸 C 回りに回転させる。これにより、長手軸 C に平行な方向への推進力が挿入部 2 に作用する。

40

【0049】

本実施形態では、基端方向から視て時計回りの螺旋状にフィン部 27 が延設されている。したがって、回転体 61 及び装着ユニット 25 が基端方向から視て時計回りに回転することにより、先端方向への推進力が挿入部 2 に作用する。これより、管腔での挿入部 2 の挿入性が向上する。一方、回転体 61 及び装着ユニット 25 が基端方向から視て反時計回

50

りに回転することにより、基端方向への推進力が挿入部 2 に作用する。これより、管腔での挿入部 2 の抜脱性が向上する。

【 0 0 5 0 】

なお、本実施形態では、回転操作入力スイッチ 7 8 の第 1 の押圧部 8 1 を押圧することにより、回転体 6 1 が時計回りに回転する。また、第 2 の押圧部 8 2 を押圧することにより、回転体 6 1 が反時計回りに回転する。すなわち、第 1 の押圧部 8 1 の押圧時に先端方向への推進力が作用し、第 1 の押圧部 8 1 より基端方向側に位置する第 2 の押圧部 8 2 の押圧時に基端方向への推進力が作用する。このため、回転操作入力スイッチ 7 8 での操作を術者が行い易い。

【 0 0 5 1 】

また、基端方向から視て反時計回りの螺旋状にフィン部 2 7 が延設されてもよい。この場合、回転体 6 1 及び装着ユニット 2 5 が基端方向から視て時計回りに回転することにより、基端方向への推進力が挿入部 2 に作用する。一方、回転体 6 1 及び装着ユニット 2 5 が基端方向から視て反時計回りに回転することにより、先端方向への推進力が挿入部 2 に作用する。ただし、大腸の内部に挿入部 2 が挿入される場合は、大腸の形状等との関係で、本実施形態と同様に、基端方向から視て時計回りの螺旋状にフィン部 2 7 が延設されることが好ましい。

【 0 0 5 2 】

図 3 及び図 4 に示すように、フィン部 2 7 は、長手軸 C に平行な方向へ外力が作用しない状態において、外周端が位置する第 1 の幅寸法部 9 3 を備える。長手軸 C に平行な方向へ外力が作用しない状態において、第 1 の幅寸法部 9 3 は、長手軸 C に平行な方向について第 1 の幅寸法 T 1 を有する。また、第 1 の幅寸法部 9 3 の内周方向側には、第 2 の幅寸法部 9 5 が設けられている。長手軸 C に平行な方向へ外力が作用しない状態において、第 2 の幅寸法部 9 5 は、長手軸 C に平行な方向について第 1 の幅寸法 T 1 より小さい第 2 の幅寸法 T 2 を有する。長手軸 C に平行な方向へ外力が作用しない状態では、第 1 の幅寸法部 9 3 に位置するフィン部 2 7 の外周端で、管腔壁と接触する。また、長手軸 C に平行な方向へ外力が作用しない状態では、長手軸 C からフィン部 2 7 の外周端までの寸法は、D 1 となる。

【 0 0 5 3 】

図 6 は、長手軸 C に平行な方向への外力がフィン部 2 7 に作用した状態を示す図である。図 6 に示すように、長手軸 C に平行な方向に外力が作用することにより、第 2 の幅寸法部 9 5 は屈曲する。これにより、長手軸 C からフィン部 2 7 の外周端までの寸法は、D 2 となり、長手軸 C に平行な方向へ外力が作用しない状態での寸法 D 1 より小さくなる。すなわち、長手軸 C に平行な方向への外力の作用状態に対応して、長手軸 C からフィン部 2 7 の外周端までの寸法 (D 1 , D 2) が変化する。ここで、寸法 D 1 は 1 0 m m より大きく、寸法 D 2 は 1 0 m m 以下であることが好ましい。

【 0 0 5 4 】

なお、フィン部 2 7 が管腔壁と接触する状態で装着ユニット 2 5 を回転した際には、長手軸 C 回りの外力がフィン部 2 7 に作用する。ただし、前述のように、本実施形態では、フィン部 2 7 は、長手軸 C に対する鋭角 θ が 45° より大きくなる状態で、延設されている。このため、第 2 の幅寸法部 9 5 は、長手軸 C 回りの外力に対して屈曲し難い。また、フィン部 2 7 の長手軸 C に対する鋭角 θ が 45° より大きいため、第 2 の幅寸法部 9 5 は長手軸 C に平行な方向への外力に対して屈曲し易い。したがって、フィン部 2 7 に作用する長手軸 C に平行な方向への外力が 1 0 N 以下の小さい外力であっても、第 2 の幅寸法部 9 5 は屈曲する。

【 0 0 5 5 】

また、長手軸 C に平行な断面において、第 1 の幅寸法部 9 3 は略円状に形成されているが、これに限るものではない。例えば、長手軸 C に平行な断面において、第 1 の幅寸法部 9 3 が略四角形状に形成されてもよい、すなわち、長手軸 C に平行な方向へ外力が作用しない状態において、第 2 の幅寸法部 9 5 の第 2 の幅寸法 T 2 が、第 1 の幅寸法部 9 3 の第

10

20

30

40

50

1の幅寸法T1より小さければよい。

【0056】

また、図1に示すように、入力ユニット12は、装着ユニット25の回転速度を入力する回転速度入力部96を備える。モータ制御部77は、回転速度入力部96での入力に基づいて、モータ75の回転速度を制御し、装着ユニット25の回転速度を制御している。また、制御ユニット10は、装着ユニット25が回転している状態を術者に告知する処理を行う告知処理部97を備える。告知処理部97での処理により、表示ユニット11への表示、音の発生等によって、装着ユニット25が回転している状態が術者に認識される。

【0057】

また、画像処理ユニット7は、被写体の画像の明度を検出する明度検出部98を備える。制御ユニット10は、明度検出部98での検出結果に基づいて、挿入部2の挿入方向と管腔の延設方向との関係を検出する方向関係検出部99を備える。モータ制御部77は、方向関係検出部99での検出結果に基づいて、モータ75の回転駆動を制御している。被写体の画像では、管腔の部分が暗くなり、管腔壁の部分が明るくなる。このため、挿入部2の挿入方向と管腔の延設方向とが略一致する場合は、被写体の画像の中心部が暗くなる。この際、方向関係検出部99は挿入部2の挿入方向と管腔の延設方向とが略一致すると判断し、モータ制御部77によりモータ75が回転駆動される。これにより、装着ユニット25が回転する。一方、挿入部2の先端が管腔壁と対向する状態等の挿入部2の挿入方向と管腔の延設方向とが大きく異なる場合は、被写体の画像の中心部が明るくなる。この際、方向関係検出部99は挿入部2の挿入方向と管腔の延設方向とが大きく異なると判断し、モータ制御部77によりモータ75が回転駆動されない。このため、装着ユニット25は回転しない。

【0058】

次に、本実施形態の内視鏡1の作用について説明する。内視鏡1の挿入部2は、口又は肛門から管腔へ挿入され、管腔から口又は肛門を通して抜脱される。挿入部2が小腸の内部又は大腸の内部に挿入される際、及び、挿入部2が小腸の内部又は大腸の内部から抜脱される際には、挿入部2は内径が20mm以下の食道(esophagus)又は肛門を通過する。これに対し、小腸及び大腸は内径が20mmより大きい。

【0059】

本実施形態の内視鏡と同様に、チューブ本体と、フィン部が設けられた装着ユニットを備える内視鏡として、前記特許文献1及び前記特許文献2の内視鏡がある。これらの内視鏡では、長手軸に平行な方向への外力の作用状態の変化によって、長手軸からフィン部の外周端までの寸法は変化しない。このため、長手軸からフィン部の外周端までの寸法が10mmより大きい場合は、食道、肛門等の内径が小さい管腔を挿入部が通過し難い。一方、長手軸からフィン部の外周端までの寸法が10mm以下の場合は、小腸の内部、大腸の内部等の内径が大きい管腔で、フィン部が管腔壁に接触しない。このため、装着ユニットを回転させた場合も、長手軸に平行な方向に推進力が発生しない。

【0060】

これに対し本実施形態の内視鏡1では、長手軸Cに平行な方向への外力の作用状態に対応して、長手軸Cからフィン部27の外周端までの寸法(D1, D2)が変化する。装着ユニット25が回転しない状態で挿入部2を管腔に挿入又は抜脱する際は、術者により長手軸Cに平行な方向へ2N~20Nの力が加えられる。このため、挿入部2が内径の小さい管腔を通過する際には、2N~20Nの長手軸Cに平行な方向への外力が管腔壁からフィン部27に作用する。管腔壁からの外力により、フィン部27の第2の幅寸法部95が屈曲する。これにより、長手軸Cからフィン部27の外周端までの寸法が、10mm以下の寸法D2となる。したがって、内径が小さい管腔を、挿入部2が通過し易い。

【0061】

また、挿入部2が内径の大きい管腔を通過する際には、長手軸Cに平行な方向への外力が管腔壁からフィン部27に作用しない。このため、フィン部27の第2の幅寸法部95が屈曲せず、長手軸Cからフィン部27の外周端までの寸法は、10mmより大きい寸法

D 1となる。この際、フィン部 2 7 の第 1 の幅寸法部 9 3 が管腔壁に接触する。この状態で装着ユニット 2 5 を回転することにより、長手軸 C に平行な方向への推進力が挿入部 2 に作用する。推進力により、内径が大きい管腔を通過する際に、挿入部 2 の挿入性及び抜脱性が向上する。以上のように、本実施形態の内視鏡 1 では、挿入部 2 が通過する位置での管腔の内径に対応して、挿入部 2 の挿入及び抜脱が行われる。

【 0 0 6 2 】

また、長手軸 C に平行な方向に外力が作用しない状態のフィン部 2 7 では、第 1 の幅寸法部 9 3 の第 1 の幅寸法 T 1 が第 2 の幅寸法部 9 5 の第 2 の幅寸法 T 2 より大きい。このため、フィン部 2 7 と管腔壁との接触面積が大きくなる。したがって、装着ユニット 2 5 が回転した際に、長手軸 C に平行な方向への推進力がさらに大きくなる。これにより、内径が大きい管腔を通過する際の、挿入部 2 の挿入性及び抜脱性がさらに向上する。

10

【 0 0 6 3 】

また、内径が大きい管腔を挿入部 2 が通過する際は、回転体 6 1 及び装着ユニット 2 5 が基端方向から見て時計回りに回転することにより、先端方向への推進力が挿入部 2 に作用する。これより、管腔での挿入部 2 の挿入性が向上する。一方、回転体 6 1 及び装着ユニット 2 5 が基端方向から見て反時計回りに回転することにより、基端方向への推進力が挿入部 2 に作用する。これより、管腔での挿入部 2 の抜脱性が向上する。

【 0 0 6 4 】

ここで、前記特許文献 1 及び前記特許文献 2 の内視鏡では、装着ユニットの先端及び基端において、装着ユニットと挿入部の外周部との間に隙間を有する。このため、装着ユニットを挿入部に対して回転させた際に、装着ユニットと挿入部の外周部との間で管腔壁が挟まれる可能性がある。装着ユニットと挿入部の外周部との間に管腔壁が挟まることにより、挿入部の挿入性及び抜脱性が低下するとともに、患者の負担が大きくなる。

20

【 0 0 6 5 】

これに対し、本実施形態では、装着ユニット 2 5 のチューブ先端部 2 8 がチューブ本体 2 6 より軟らかい材料から形成されるため、チューブ先端部 2 8 の内周部に先端側隙間減少部 9 1 が形成される。先端側隙間減少部 9 1 により、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 がなくなる、又は、隙間 9 0 がチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少する。このため、装着ユニット 2 5 の時計回りの回転により先端方向への推進力が挿入部 2 に作用する際に、チューブ先端部 2 8 と挿入部 2 の外周部との間に管腔壁が挟まれることが、有効に防止される。

30

【 0 0 6 6 】

また、チューブ基端部 2 9 がチューブ本体 2 6 より軟らかい材料から形成されるため、チューブ基端部 2 9 の内周部に基端側隙間減少部 9 2 が形成される。基端側隙間減少部 9 2 により、チューブ基端部 2 9 が挿入部 2 の回転体（第 2 の回転体）6 1 に隙間 9 0 が無い状態で、固定される。すなわち、基端側隙間減少部 9 2 により、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 がなくなる、又は、隙間 9 0 がチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少する。このため、装着ユニット 2 5 の反時計回りの回転により基端方向への推進力が挿入部 2 に作用する際に、チューブ基端部 2 9 と挿入部 2 の外周部との間に管腔壁が挟まれることが、有効に防止される。以上のようにして、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部との間に管腔壁が挟まれることが、有効に防止される。

40

【 0 0 6 7 】

また、装着ユニット 2 5 のチューブ本体 2 6 は、挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材（例えば接着剤 5 2）との間の隙間 9 0 を有する状態で設けられている。このため、装着ユニット 2 5 の挿入本体 1 3 に対する回転性が向上する。したがって、装着ユニット 2 5 が回転した際に、長手軸 C に平行な方向への推進力がさらに大きくなる。これにより、内径が大きい管腔を通過する際に、挿入部 2 の挿入性及び抜脱性がさらに向上する。

【 0 0 6 8 】

50

また、内視鏡 1 では、能動湾曲部（第 1 の管状部）1 6 と受動湾曲部（第 2 の管状部）1 7 との間を接続する湾曲管接続部（第 1 の接続管部）2 1 の外周方向側に、チューブ先端部 2 8 が位置している。湾曲管接続部 2 1 は、能動湾曲部 1 6 及び受動湾曲部 1 7 より可撓性の低く、長手軸 C に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、能動湾曲部 1 6 及び受動湾曲部 1 7 が湾曲した際でも、チューブ先端部 2 8 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 が大きくなり難い。したがって、チューブ先端部 2 8 と挿入部 2 の外周部との間に管腔壁が挟まれることが、さらに有効に防止される。

【0069】

また、第 1 の蛇管部（第 3 の管状部）1 8 と第 2 の蛇管部（第 4 の管状部）1 9 との間を接続する蛇管接続部（第 2 の接続管部）2 3 の外周方向側に、チューブ基端部 2 9 が位置している。蛇管接続部 2 3 は、第 1 の蛇管部 1 8 及び第 2 の蛇管部 1 9 より可撓性の低く、長手軸 C に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、第 1 の蛇管部 1 8 及び第 2 の蛇管部 1 9 が湾曲した際でも、チューブ基端部 2 9 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 が大きくなり難い。したがって、チューブ基端部 2 9 と挿入部 2 の外周部との間に管腔壁が挟まれることが、さらに有効に防止される。

【0070】

また、小腸の内部、大腸の内部では、管腔が屈曲する箇所がある。このため、挿入部（2）は、ある程度の可撓性を有し、管腔の屈曲箇所を通過し易くする必要がある。前記特許文献 1 及び前記特許文献 2 の内視鏡では、長手軸に平行な方向について挿入部のほぼ全長に渡って、装着ユニットが延設されている。一般に、内視鏡の挿入部の基端方向側の部位は、蛇管部となる。前述のように、蛇管部は、外力が作用することにより受動的に湾曲する受動湾曲部に比べ可撓性が低い。このため、蛇管部の外周方向側に装着ユニットが位置することにより、さらに蛇管部の可撓性が低下する。蛇管部の可撓性が低下することにより、管腔の屈曲箇所を挿入部が通過し難くなり、管腔での挿入部の挿入性及び抜脱性が低下する。

【0071】

ここで、挿入部に蛇管部を設けず、能動湾曲部の基端方向側に挿入部の基端まで受動湾曲部を延設することにより、挿入部の基端方向側の部位の可撓性の低下を防止することも考えられる。しかし、装着ユニットが回転しない状態では、術者により印加される長手軸に平行な方向への力により、挿入部の管腔での挿入又は抜脱が行われる。このため、基端方向に向かうにつれて挿入部の可撓性が低下する構成にすることにより、術者により印加される力の伝達性を保持している。したがって、基端まで受動湾曲部を延設する構成では、挿入部の基端方向側の部位での可撓性が過度に高くなる。このため、装着ユニットが回転しない状態で挿入部の挿入又は抜脱を行う際に、術者により印加される力の伝達性が低下してしまう。

【0072】

これに対し本実施形態では、能動湾曲部 1 6 の基端方向側より受動湾曲部 1 7 が位置し、受動湾曲部 1 7 より基端方向側に受動湾曲部 1 7 より可撓性が低い第 1 の蛇管部 1 8 及び第 2 の蛇管部 1 9 が位置している。そして、湾曲管接続部 2 1 の外周方向側の位置から蛇管接続部 2 3 の外周方向側の位置まで、装着ユニット 2 5 が長手軸 C に沿って延設される。すなわち、装着ユニット 2 5 の一部が受動湾曲部 1 7 の外周方向側に位置している。以上のような構成にすることにより、挿入部 2 の基端方向側の部位に設けられる第 2 の蛇管部 1 9 の外周方向側に装着ユニット 2 5 が位置しない。このため、第 2 の蛇管部 1 9 の可撓性の低下が防止される。したがって、管腔の屈曲箇所を挿入部 2 が通過し易くなり、管腔での挿入部 2 の挿入性及び抜脱性が向上する。

【0073】

また、挿入部 2 では、受動湾曲部 1 7 の基端方向側に第 1 の蛇管部 1 8 及び第 2 の蛇管部 1 9 が設けられている。このため、挿入部 2 の基端方向側の部位での可撓性が過度に高

10

20

30

40

50

くなることはない。したがって、装着ユニット２５が回転しない状態で挿入部２の挿入又は抜脱を行う際に、術者により印加される長手軸Ｃに平行な方向への力が適切に伝達される。

【００７４】

ここで、装着ユニット２５が挿入部２に取付けられた状態では、第１の蛇管部１８より第２の蛇管部１９の可撓性が高くなる。前述のように、装着ユニット２５が回転しない状態では、基端方向に向かうにつれて挿入部の可撓性が低下することが好ましい。そこで、本実施形態では、第２の蛇管部１９の内部に、牽引ワイヤ８５及びコイルパイプ８９が設けられている。牽引ワイヤ８５が牽引された際には、長手軸Ｃに平行な方向への圧縮力がコイルパイプ８９に作用する。圧縮力が作用することにより、コイルパイプ８９の硬度が高くなり、第２の蛇管部１９の可撓性が低下する。第２の蛇管部１９の可撓性が低下することにより、装着ユニット２５が回転しない状態で挿入部２の挿入又は抜脱を行う際に、術者により印加される長手軸Ｃに平行な方向への力の伝達性がさらに向上する。

10

【００７５】

そこで、上記構成の内視鏡１では、以下の効果を奏する。すなわち、本実施形態の内視鏡１では、装着ユニット２５のチューブ先端部２８がチューブ本体２６より軟らかい材料から形成されるため、チューブ先端部２８の内周部に先端側隙間減少部９１が形成される。先端側隙間減少部９１により、装着ユニット２５と挿入部２の外周部又は挿入部２の外周部に取付けられる部材との間で、隙間９０がなくなる、又は、隙間９０がチューブ本体２６の内周方向側の部位より減少する。このため、装着ユニット２５の時計回りの回転により先端方向への推進力が挿入部２に作用する際に、チューブ先端部２８と挿入部２の外周部との間に管腔壁が挟まれることを、有効に防止することができる。

20

【００７６】

また、チューブ基端部２９がチューブ本体２６より軟らかい材料から形成されるため、チューブ基端部２９の内周部に基端側隙間減少部９２が形成される。基端側隙間減少部９２により、チューブ基端部２９が挿入部２の回転体（第２の回転体）６１に隙間９０がない状態で、固定される。すなわち、基端側隙間減少部９２により、装着ユニット２５と挿入部２の外周部又は挿入部２の外周部に取付けられる部材との間で、隙間９０がなくなる、又は、隙間９０がチューブ本体２６の内周方向側の部位より減少する。このため、装着ユニット２５の反時計回りの回転により基端方向への推進力が挿入部２に作用する際に、チューブ基端部２９と挿入部２の外周部との間に管腔壁が挟まれることを、有効に防止することができる。以上のようにして、内視鏡１では、装着ユニット２５と挿入部２の外周部との間に管腔壁が挟まれることを、有効に防止することができる。

30

【００７７】

また、内視鏡１では、装着ユニット２５のチューブ本体２６は、挿入部２の外周部又は挿入部２の外周部に取付けられる部材との間の隙間９０を有する状態で設けられている。このため、装着ユニット２５の挿入本体１３に対する回転性が向上する。したがって、装着ユニット２５が回転した際に、長手軸Ｃに平行な方向への推進力が大きくなる。これにより、内径が大きい管腔を通過する際に、挿入部２の挿入性及び抜脱性を向上させることができる。

40

【００７８】

また、内視鏡１では、能動湾曲部（第１の管状部）１６と受動湾曲部（第２の管状部）１７との間を接続する湾曲管接続部（第１の接続管部）２１の外周方向側に、チューブ先端部２８が位置している。湾曲管接続部２１は、能動湾曲部１６及び受動湾曲部１７より可撓性の低く、長手軸Ｃに垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、能動湾曲部１６及び受動湾曲部１７が湾曲した際でも、チューブ先端部２８と挿入部２の外周部又は挿入部２の外周部に取付けられる部材との間で、隙間９０が大きくなり難い。したがって、チューブ先端部２８と挿入部２の外周部との間に管腔壁が挟まれることを、さらに有効に防止することができる。

【００７９】

50

また、内視鏡１では、第１の蛇管部（第３の管状部）１８と第２の蛇管部（第４の管状部）１９との間を接続する蛇管接続部（第２の接続管部）２３の外周方向側に、チューブ基端部２９が位置している。蛇管接続部２３は、第１の蛇管部１８及び第２の蛇管部１９より可撓性の低く、長手軸Ｃに垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、第１の蛇管部１８及び第２の蛇管部１９が湾曲した際でも、チューブ基端部２９と挿入部２の外周部又は挿入部２の外周部に取付けられる部材との間で、隙間９０が大きくなり難い。したがって、チューブ基端部２９と挿入部２の外周部との間に管腔壁が挟まれることを、さらに有効に防止することができる。

【００８０】

また、内視鏡１では、長手軸Ｃに平行な方向への外力の作用状態に対応して、長手軸Ｃからフィン部２７の外周端までの寸法（Ｄ１，Ｄ２）が変化する。装着ユニット２５が回転しない状態で挿入部２を管腔に挿入又は抜脱する際は、術者により長手軸Ｃに平行な方向へ力が加えられる。このため、挿入部２が内径の小さい管腔を通過する際には、長手軸Ｃに平行な方向への外力が管腔壁からフィン部２７に作用する。管腔壁からの外力により、フィン部２７の第２の幅寸法部９５が屈曲する。これにより、長手軸Ｃからフィン部２７の外周端までの寸法が寸法Ｄ２まで小さくなる。したがって、内径が小さい管腔を、挿入部２が容易に通過することができる。

【００８１】

また、内視鏡１では、挿入部２が内径の大きい管腔を通過する際には、長手軸Ｃに平行な方向への外力が管腔壁からフィン部２７に作用しない。このため、フィン部２７の第２の幅寸法部９５が屈曲せず、長手軸Ｃからフィン部２７の外周端までの寸法は、寸法Ｄ２より大きい寸法Ｄ１となる。この際、フィン部２７の第１の幅寸法部９３が管腔壁に接触する。この状態で装着ユニット２５を回転することにより、長手軸Ｃに平行な方向への推進力が挿入部２に作用する。推進力により、内径が大きい管腔を通過する際に、挿入部２の挿入性及び抜脱性を向上させることができる。以上のように、内視鏡１では、挿入部２が通過する位置での管腔の内径に対応して、挿入部２の挿入及び抜脱が行うことができる。

【００８２】

また、内視鏡１では、フィン部２７に長手軸Ｃに平行な方向に外力が作用しない状態において、第１の幅寸法部９３の第１の幅寸法Ｔ１が第２の幅寸法部９５の第２の幅寸法Ｔ２より大きい。このため、フィン部２７と管腔壁との接触面積が大きくなる。したがって、装着ユニット２５が回転した際に、長手軸Ｃに平行な方向への推進力がさらに大きくなる。これにより、内径が大きい管腔を通過する際の、挿入部２の挿入性及び抜脱性をさらに向上させることができる。

【００８３】

また、内視鏡１では、能動湾曲部１６の基端方向側より受動湾曲部１７が位置し、受動湾曲部１７より基端方向側に受動湾曲部１７より可撓性が低い第１の蛇管部１８及び第２の蛇管部１９が位置している。そして、湾曲管接続部２１の外周方向側の位置から蛇管接続部２３の外周方向側の位置まで、装着ユニット２５が長手軸Ｃに沿って延設される。すなわち、装着ユニット２５の一部が受動湾曲部１７の外周方向側に位置している。以上のような構成にすることにより、挿入部２の基端方向側の部位に設けられる第２の蛇管部１９の外周方向側に装着ユニット２５が位置しない。このため、第２の蛇管部１９の可撓性の低下が防止される。したがって、管腔の屈曲箇所を挿入部２が通過し易くなり、管腔での挿入部２の挿入性及び抜脱性を向上させることができる。

【００８４】

また、内視鏡１では、受動湾曲部１７の基端方向側に第１の蛇管部１８及び第２の蛇管部１９が設けられている。このため、挿入部２の基端方向側の部位での可撓性が過度に高くなることはない。したがって、装着ユニット２５が回転しない状態で挿入部２の挿入又は抜脱を行う際に、術者により印加される長手軸Ｃに平行な方向への力を適切に伝達することができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 8 5 】

また、内視鏡 1 では、第 2 の蛇管部 1 9 の内部に、牽引ワイヤ 8 5 及びコイルパイプ 8 9 が設けられている。牽引ワイヤ 8 5 が牽引された際には、長手軸 C に平行な方向への圧縮力がコイルパイプ 8 9 に作用する。圧縮力が作用することにより、コイルパイプ 8 9 の硬度が高くなり、第 2 の蛇管部 1 9 の可撓性が低下する。第 2 の蛇管部 1 9 の可撓性が低下することにより、装着ユニット 2 5 が回転しない状態で挿入部 2 の挿入又は抜脱を行う際に、術者により印加される長手軸 C に平行な方向への力の伝達性をさらに向上させることができる。

【 0 0 8 6 】

また、内視鏡 1 では、回転ギア 6 3 及び回転体 6 1 のギア部 6 5 と挿入本体 1 3 の内部の内蔵延設部材 3 3 との間は、蛇管接続部 2 3 に設けられる接続口金（仕切り部材）5 8 により分離されている。これにより、回転ギア 6 3 及びギア部 6 5 と内蔵延設部材 3 3 との接触を有効に防止することができる。

10

【 0 0 8 7 】

また、内視鏡 1 では、弾性部材 6 2 により回転体 6 1 と接続口金 5 8 との間を水密に保たれている。これにより、ギア配置空洞 6 4 への挿入部 2 の外部からの液体の流入が防止されている。したがって、内蔵延設部材 3 3 が設けられる挿入本体 1 3 の内部への液体の流入を有効に防止することができる。

【 0 0 8 8 】

また、内視鏡 1 では、内蔵延設部材 3 3 に被覆される保護チューブ 3 7 の基端は、回転ギア 6 3 が取付けられる蛇管接続部 2 3 より先端方向側に位置している。すなわち、保護チューブ 3 7 の基端は、回転ギア 6 3 より先端方向側に位置している。蛇管接続部 2 3 には、装着ユニット 2 5 を回転させる部材である回転ギア 6 3、回転体 6 1 等が取付けられる。このため、蛇管接続部 2 3（接続口金 5 8）の内径は、受動湾曲部 1 7 の内径、第 1 の蛇管部 1 8 の内径等に比べて、小さい。そこで、内蔵延設部材 3 3 に被覆される保護チューブ 3 7 の基端を蛇管接続部 2 3 より先端方向側に位置させることにより、蛇管接続部 2 3 の内部でのスペースを確保することができる。

20

【 0 0 8 9 】

（第 1 の実施形態の変形例）

なお、第 1 の実施形態では、挿入部 2 は、隙間がない状態でチューブ基端部 2 9 が固定される回転体（第 2 の回転体）6 1 を備える。しかし、第 1 の変形例として図 7 に示すように、挿入部 2 は、隙間がない状態でチューブ先端部 2 8 が固定される回転体（第 1 の回転体）1 0 1 を備えてもよい。回転体 1 0 1 は、挿入本体 1 3 に対して長手軸 C 回りに回転可能である。回転体 1 0 1 を回転させる原理については、回転体 6 1 と同様であるため、説明を省略する。チューブ先端部 2 8 の先端側隙間減少部 9 1 により、チューブ先端部 2 8 が挿入部 2 の回転体（第 1 の回転体）1 0 1 に隙間 9 0 がない状態で、固定されている。

30

【 0 0 9 0 】

また、本変形例では、湾曲管接続部 2 1 に、回転体 1 0 1 が設けられている。したがって、能動湾曲部（第 1 の管状部）1 6 と受動湾曲部（第 2 の管状部）1 7 との間を接続する湾曲管接続部（第 1 の接続管部）2 1 の外周方向側に、チューブ先端部 2 8 が位置している。湾曲管接続部 2 1 は、能動湾曲部 1 6 及び受動湾曲部 1 7 より可撓性の低く、長手軸 C に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、本変形例においても、能動湾曲部 1 6 及び受動湾曲部 1 7 が湾曲した際に、チューブ先端部 2 8 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 が大きくなり難い。

40

【 0 0 9 1 】

また、回転体（第 1 の回転体）1 0 1 及び回転体（第 2 の回転体）6 1 の両方が設けられてもよい。以上より、回転体（第 1 の回転体）1 0 1 及び回転体（第 2 の回転体）6 1 の少なくともいずれか一方が設けられていればよい。

【 0 0 9 2 】

50

また、第 1 の実施形態では、湾曲管接続部 2 1 の外周方向側の位置から蛇管接続部 2 3 の外周方向側の位置まで、装着ユニット 2 5 が長手軸 C に沿って延設される。しかし、第 2 の変形例として図 8 に示すように、湾曲管接続部 2 1 A の外周方向側の位置から中継接続部 2 2 A の外周方向側の位置まで、装着ユニット 2 5 が長手軸 C に沿って延設されてもよい。本変形例では、挿入部 2 の基端方向側に設けられる受動湾曲部 1 7 A と、受動湾曲部 1 7 A より基端方向側に設けられる蛇管部 1 8 A とを備える。能動湾曲部 1 6 A と受動湾曲部 1 7 A との間は、湾曲管接続部 2 1 A により接続されている。受動湾曲部 1 7 A と蛇管部 1 8 A との間は、中継接続部 2 2 A により接続されている。蛇管部 1 8 A は、挿入部 2 の基端まで長手軸 C に沿って延設されている。

10

【 0 0 9 3 】

ここで、能動湾曲部 1 6 A の構成は第 1 の実施形態の能動湾曲部 1 6 と、受動湾曲部 1 7 A の構成は第 1 の実施形態の受動湾曲部 1 7 と、蛇管部 1 8 A の構成は第 1 の実施形態の第 1 の蛇管部 1 8 と、略同一である。また、湾曲管接続部 2 1 A の構成は第 1 の実施形態の湾曲管接続部 2 1 と、中継接続部 2 2 A の構成は第 1 の実施形態の中継接続部 2 2 と、略同一である。したがって、能動湾曲部 1 6 A、受動湾曲部 1 7 A、蛇管部 1 8 A、湾曲管接続部 2 1 A 及び中継接続部 2 2 A の構成については、説明を省略する。

【 0 0 9 4 】

本変形例では、能動湾曲部 1 6 A が第 1 の管状部となり、受動湾曲部 1 7 A が第 2 の管状部と第 3 の管状部との連続体となる。そして、蛇管部 1 8 A が第 4 の管状部となる。また、湾曲管接続部 2 1 A が、第 1 の管状部 (1 6 A) と第 2 の管状部 (1 7 A) との間を接続する第 1 の接続管部となる。そして、中継接続部 2 2 A が、第 3 の管状部 (1 7 A) と第 4 の管状部 (1 8 A) との間を接続する第 2 の接続管部となる。

20

【 0 0 9 5 】

本変形例では、能動湾曲部 (第 1 の管状部) 1 6 A と受動湾曲部 (第 2 の管状部) 1 7 A との間を接続する湾曲管接続部 (第 1 の接続管部) 2 1 A の外周方向側に、チューブ先端部 2 8 が位置している。湾曲管接続部 2 1 A は、能動湾曲部 1 6 A 及び受動湾曲部 1 7 A より可撓性の低く、長手軸 C に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、本変形例においても、能動湾曲部 1 6 A 及び受動湾曲部 1 7 A が湾曲した際に、チューブ先端部 2 8 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 が大きくなり難い。

30

【 0 0 9 6 】

また、受動湾曲部 (第 3 の管状部) 1 7 A と蛇管部 (第 4 の管状部) 1 8 A との間を接続する中継接続部 (第 2 の接続管部) 2 2 A の外周方向側に、チューブ基端部 2 9 が位置している。中継接続部 2 2 A は、受動湾曲部 1 7 A 及び蛇管部 1 8 A より可撓性の低く、長手軸 C に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、本変形例においても、受動湾曲部 1 7 A 及び蛇管部 1 8 A が湾曲した際に、チューブ基端部 2 9 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 が大きくなり難い。

【 0 0 9 7 】

また、本変形例では、湾曲管接続部 2 1 A の外周方向側の位置から中継接続部 2 2 A の外周方向側の位置まで、装着ユニット 2 5 が長手軸 C に沿って延設されている。すなわち、装着ユニット 2 5 の略全体が受動湾曲部 1 7 A の外周方向側に位置している。以上のような構成にすることにより、挿入部 2 の基端方向側の部位に設けられる蛇管部 1 8 A の外周方向側に装着ユニット 2 5 が位置しない。このため、蛇管部 1 8 A の可撓性の低下が防止される。

40

【 0 0 9 8 】

以上、第 2 の変形例から、挿入部 2 の基端方向側の部位の可撓性の低下を防止するためには、装着ユニット 2 5 の少なくとも一部が受動湾曲部 (1 7 , 1 7 A) の外周方向側に位置していればよい。

50

【 0 0 9 9 】

また、第3の変形例として図9A及び図9Bに示すように、チューブ本体26と挿入部2の外周部との間の隙間90への送気及び隙間90からの吸気を行う送気チューブ102が設けられてもよい。送気チューブ102は、隙間90から第1の蛇管部18の外周部、挿入本体13（挿入部2）の内部、操作部3の内部を通して、操作部3の外部に延設されている。そして、送気チューブ102の他端は、送気ユニット103に接続されている。送気ユニット103は、制御ユニット10に電氣的に接続されている。送気ユニット103を駆動することにより、隙間90への送気及び隙間90からの吸気が行われる。隙間90での送気又は吸気により、長手軸Cからフィン部27の外周端までの寸法（D1，D2）が変化する。これにより、管腔の内径に対応させて、長手軸Cからフィン部27の外周端までの寸法（D1，D2）が調整される。したがって、様々な内径の管腔において、フィン部27の外周端を管腔壁と接触させることが可能となる。

10

【 0 1 0 0 】

また、第4の変形例として図10に示すように、挿入部2には、種類の異なる2つの装着ユニット25A，25Bが選択的に取付けられてもよい。装着ユニット（第1の装着ユニット）25Aは、長手軸Cに平行な方向の寸法L1を有する。また、長手軸Cに平行な方向への外力が作用しない状態で、装着ユニット25Aの長手軸Cからフィン部27の外周端までの寸法は、D3となる。装着ユニット（第2の装着ユニット）25Bは、長手軸Cに平行な方向について寸法L1より小さい寸法L2を有する。また、長手軸Cに平行な方向への外力が作用しない状態で、装着ユニット25Bの長手軸Cからフィン部27の外周端までの寸法は、寸法D3より大きい寸法D4となる。このような構成にすることにより、患者の種類、管腔の種類に対応させて、装着ユニット（25A，25B）を挿入部2に選択的に取付けることが可能となる。

20

【 0 1 0 1 】

また、第5の変形例として図11に示すように、装着ユニット25のチューブ本体26の外周部には、2つのフィン部27A，27Bが螺旋状に延設されてもよい。ここで、フィン部（第1のフィン部）27Aの長手軸Cに対する鋭角1は、フィン部（第2のフィン部）27Bの長手軸Cに対する鋭角2と同一となる。また、フィン部27Aは、長手軸Cに平行な方向にフィン部27Bから寸法Sだけ離れて、フィン部27Bと同一のピッチで延設されている。これにより、フィン部27Aとフィン部27Bとが重なることなく延設される。

30

【 0 1 0 2 】

2つのフィン部27A，27Bを設けることにより、フィン部27A，27Bと管腔壁との接触面積が大きくなる。したがって、装着ユニット25が回転した際に、長手軸Cに平行な方向への推進力がさらに大きくなる。これにより、管腔を通過する際の、挿入部2の挿入性及び抜脱性がさらに向上する。

【 0 1 0 3 】

また、第6の変形例として図12に示すように、挿入部2には、2つの装着ユニット25C，25Dが同時に取付けられてもよい。本変形例では、装着ユニット（第1の装着ユニット）25Cより基端方向側に、装着ユニット（第2の装着ユニット）25Dが設けられている。挿入部2に取付けられる装着ユニット25C，25Dの数が増加することにより、装着ユニット25C，25Dが同時に回転した際に、長手軸Cに平行な方向への推進力がさらに大きくなる。これにより、管腔を通過する際の、挿入部2の挿入性及び抜脱性がさらに向上する。

40

【 0 1 0 4 】

また、第1の実施形態では、装着ユニット25のチューブ本体26は樹脂から形成され、フィン部27はゴムから形成されているが、これに限るものではない。例えば、第7の変形例として図13に示すように、チューブ本体26が、金属製の螺旋管105と、螺旋管105の外周方向側に被覆される金属製の網状管106と、網状管106の外周方向側に被覆される樹脂製の外皮107と、を備えてもよい。すなわち、チューブ本体26が、

50

第１の蛇管部１８及び第２の蛇管部１９と同様の層構成となる。本変形例では、フィン部２７は、樹脂から形成され、チューブ本体２６の外皮１０７と一体に形成される。

【０１０５】

（第２の実施形態）

次に、本発明の第２の実施形態について、図１４及び図１５を参照して説明する。第２の実施形態は、第１の実施形態の構成を次の通り変形したものである。なお、第１の実施形態と同一の部分については同一の符号を付して、その説明は省略する。

【０１０６】

図１４は、本実施形態の部材挿入部７２を示す図である。図１４に示すように、本実施形態でも第１の実施形態と同様に、回転ギア６３からチャンネル７３に沿って線状部材８３が延設されている。線状部材８３の回転ギア６３とは反対側の端部には、切替え接続部１１１が設けられている。本実施形態では、回転ギア６３、線状部材８３及び切替え接続部１１１が、ギアユニット１１０となる。

【０１０７】

また、装着部である部材挿入部７２には、モータ７５を備える駆動ユニット１１３又は手動で回転操作が行われる手動回転部材１１８を備える手動回転ユニット１１７が選択的に取付けられる。部材挿入部７２に駆動ユニット１１３が取付けられた状態では、切替え接続部１１１は、線状部材８３とモータ７５との間を接続する。また、部材挿入部７２に手動回転ユニット１１７が取付けられた状態では、切替え接続部１１１は、線状部材８３と手動回転部材１１８との間を接続する。すなわち、切替え接続部１１１により、線状部材８３と駆動部材であるモータ７５又は手動回転部材１１８との間が選択的に接続される。これにより、ギアユニット１１０に、駆動ユニット１１３又は手動回転ユニット１１７が選択的に接続される。

【０１０８】

ギアユニット１１０に駆動ユニット１１３が接続された状態では、モータ７５の回転駆動により、線状部材８３及び回転ギア６３がギア軸Ｒ回りに回転する。回転ギア６３が回転することにより、回転体６１及び装着ユニット２５が挿入本体１３に対して長手軸Ｃ回りに回転する。また、ギアユニット１１０に手動回転ユニット１１７が接続された状態では、手動回転部材１１８での回転操作により、線状部材８３及び回転ギア６３がギア軸Ｒ回りに回転する。これにより、回転体６１及び装着ユニット２５が挿入本体１３に対して長手軸Ｃ回りに回転する。

【０１０９】

図１５は、部材挿入部７２にモータ７５が装着された状態を示す図である。図１５に示すように、モータ７５は、部材挿入部７２に固定された状態で設けられるモータ本体１２１と、モータ７５が回転駆動された状態でモータ本体１２１に対して回転する回転軸部１２２と、を備える。ギアユニット１１０に駆動ユニット１１３が接続された状態では、線状部材８３は切替え接続部１１１を介して、回転軸部１２２に接続されている。また、操作部３の部材挿入部７２とモータ７５のモータ本体１２１との間には、弾性部材１２３が設けられている。弾性部材１２３により、部材挿入部７２とモータ７５との間が水密に保たれる。これにより、操作部３の内部への外部からの液体の流入が防止される。

【０１１０】

また、部材挿入部７２に手動回転部材１１８が装着された状態では、弾性部材１２３により部材挿入部７２と手動回転部材１１８との間が水密に保たれる。これにより、操作部３の内部への外部からの液体の流入が防止される。以上のような構成にすることにより、部材挿入部７２に取付けられた状態で、モータ７５又は手動回転部材１１８を洗浄、消毒することが可能となる。

【０１１１】

次に、本実施形態の内視鏡１の作用について説明する。管腔において挿入部２を挿入又は抜脱する際には、駆動部材であるモータ７５を回転駆動する。これにより、装着ユニット２５が長手軸Ｃ回りに回転し、長手軸Ｃに平行な方向への推進力が挿入部２に作用する

。この際、モータ75に故障等の不具合が生じ、モータ75が回転駆動されない可能性がある。この場合、装着ユニット25が回転せず、長手軸Cに平行な方向への推進力が挿入部2に作用しない。

【0112】

そこで、本実施形態では、モータ75に不具合が生じた場合には、モータ75からギアユニット110の切替え接続部111を取外し、部材挿入部72からモータ75を取外す。そして、手動回転部材118を部材挿入部72に装着し、切替え接続部111により線状部材83と手動回転部材118との間を接続する。これにより、ギアユニット110と手動回転ユニット117とが接続される。そして、手動回転部材118で回転操作を行う。これにより、装着ユニット25が回転し、長手軸Cに平行な方向への推進力が挿入部2に作用する。以上のようにして、本実施形態では、駆動部材であるモータ75の不具合に適切に対応可能となる。

10

【0113】

また、線状部材83の回転ギア63とは反対側の端部に設けられる切替え接続部111により、線状部材83と駆動部材であるモータ75又は手動回転部材118との間が選択的に接続される。したがって、モータ75又は手動回転部材118の線状部材83からの取外し、及び、線状部材83とモータ75又は手動回転部材118との間の接続を行い易い。

【0114】

そこで、上記構成の内視鏡1では、第1の実施形態と同様の効果に加えて、以下の効果を奏する。すなわち、内視鏡1では、回転ギア63を備えるギアユニット110に、駆動ユニット113又は手動回転ユニット117が選択的に接続される。このため、モータ75に不具合が生じた場合には、モータ75からギアユニット110の切替え接続部111を取外し、部材挿入部72からモータ75を取外す。そして、手動回転部材118を部材挿入部72に装着し、切替え接続部111により線状部材83と手動回転部材118との間を接続する。そして、手動回転部材118で回転操作を行う。これにより、装着ユニット25が回転し、長手軸Cに平行な方向への推進力が挿入部2に作用する。以上のようにして、内視鏡1では、駆動部材であるモータ75の不具合に適切に対応することができる。

20

【0115】

また、内視鏡1では、線状部材83の回転ギア63とは反対側の端部に設けられる切替え接続部111により、線状部材83と駆動部材であるモータ75又は手動回転部材118との間が選択的に接続される。したがって、モータ75又は手動回転部材118の線状部材83からの取外し、及び、線状部材83とモータ75又は手動回転部材118との間の接続を容易に行うことができる。

30

【0116】

また、内視鏡1では、弾性部材123により部材挿入部72と部材挿入部72に装着されたモータ75又は手動回転部材118との間が、水密に保たれる。これにより、操作部3の内部への外部からの液体の流入が防止される。以上のような構成にすることにより、部材挿入部72に取付けられた状態で、モータ75又は手動回転部材118を洗浄、消毒

40

【0117】

(第2の実施形態の変形例)

なお、第2の実施形態では、部材挿入部72にモータ75又は手動回転部材118が装着されているが、これに限るものではない。例えば、第1の変形例として図16に示すように、線状部材83が、部材挿入口71から操作部3の外部に延出されてもよい。本変形例では、操作部3の外部で、切替え接続部111により線状部材83とモータ75又は手動回転部材118とが選択的に接続される。

【0118】

(第3の実施形態)

50

次に、本発明の第 3 の実施形態について、図 1 7 及び図 1 8 を参照して説明する。第 3 の実施形態は、第 1 の実施形態の構成を次の通り変形したものである。なお、第 1 の実施形態と同一の部分については同一の符号を付して、その説明は省略する。

【 0 1 1 9 】

図 1 7 は、湾曲管接続部 2 1 の近傍での挿入部 2 及び装着ユニット 2 5 の構成を示す図である。図 1 7 に示すように、本実施形態の挿入本体 1 3 は、第 1 の湾曲部外皮 4 5 A と、第 2 の湾曲部外皮 4 5 B とを備える。能動湾曲部 1 6 では、湾曲部網状管 4 3 の外周方向側に第 1 の湾曲部外皮 4 5 A が被覆されている。また、受動湾曲部 1 7 では、湾曲部網状管 4 3 の外周方向側に第 2 の湾曲部外皮 4 5 B が被覆されている。第 1 の湾曲部外皮 4 5 A と第 2 の湾曲部外皮 4 5 B との間には、金属製の中継外皮 1 2 5 が設けられている。湾曲管接続部 2 1 では、湾曲部網状管 4 3 の外周方向側に中継外皮 1 2 5 が被覆されている。

10

【 0 1 2 0 】

本実施形態では、第 1 の湾曲部外皮 4 5 A 及び第 1 の蛇管部外皮 4 9 により、挿入本体 1 3 の第 1 の外表面部 1 2 7 が形成されている。第 1 の外表面部 1 2 7 の外周方向側には、装着ユニット 2 5 のチューブ本体 2 6 が位置している。また、中継外皮 1 2 5 により、挿入本体 1 3 の第 2 の外表面部 1 2 8 が形成されている。第 2 の外表面部 1 2 8 の外周方向側には、装着ユニット 2 5 のチューブ先端部 2 8 が位置している。第 1 の湾曲部外皮 4 5 A がフッ素ゴム等から形成され、第 1 の蛇管部外皮 4 9 が樹脂から形成されるのに対し、中継外皮 1 2 5 は金属から形成されている。このため、第 2 の外表面部 1 2 8 は、第 1 の外表面部 1 2 7 より摩擦に対する強度が高くなっている。すなわち、第 1 の外表面部 1 2 7 が低強度外表面部となり、第 2 の外表面部 1 2 8 が第 1 の外表面部 1 2 7 より摩擦に対する強度が高い高強度外表面部となる。

20

【 0 1 2 1 】

チューブ先端部 2 8 では、先端側隙間減少部 9 1 により、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 がなくなる、又は、隙間 9 0 がチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少する。このため、装着ユニット 2 5 が回転した際に、チューブ先端部 2 8 と第 2 の外表面部 1 2 8 との間に摩擦が発生し易い。そこで、本実施形態では、中継外皮 1 2 5 を設けることにより、第 2 の外表面部 1 2 8 の摩擦に対する強度を高くしている。このため、装着ユニット 2 5 が回転する際に発生する摩擦により、第 2 の外表面部 1 2 8 が損傷し難い。

30

【 0 1 2 2 】

また、金属製の中継外皮 1 2 5 (第 2 の外表面部 1 2 8) は、能動湾曲部 (第 1 の管状部) 1 6 及び受動湾曲部 1 7 (第 2 の管状部) より可撓性の低い湾曲管接続部 2 1 (第 1 の接続管部) に位置している。湾曲管接続部 2 1 は、長手軸 C に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、中継外皮 1 2 5 の品質を保ち易い。

【 0 1 2 3 】

図 1 8 は、蛇管接続部 2 3 の近傍での挿入部 2 及び装着ユニット 2 5 の構成を示す図である。図 1 8 に示すように、蛇管接続部 2 3 には、第 1 の実施形態と同様に、第 1 の蛇管部 1 8 と第 2 の蛇管部 1 9 との間を接続する金属製の接続口金 5 8 が設けられている。接続口金 5 8 により、挿入本体 1 3 の第 3 の外表面部 1 2 9 が形成されている。第 3 の外表面部 1 2 9 の外周方向側には、装着ユニット 2 5 のチューブ基端部 2 9 が位置している。接続口金 5 8 は金属から形成されているため、第 3 の外表面部 1 2 9 は、第 1 の外表面部 1 2 7 より摩擦に対する強度が高くなっている。すなわち、第 1 の外表面部 1 2 7 が低強度外表面部となり、第 2 の外表面部 1 2 9 が第 1 の外表面部 1 2 7 より摩擦に対する強度が高い高強度外表面部となる。

40

【 0 1 2 4 】

接続口金 5 8 には、第 1 の実施形態と同様に、回転体 (第 2 の回転体) 6 1 及び回転ギア 6 3 が取付けられている。接続口金 5 8 は、回転ギア 6 3 及び回転体 6 1 のギア部 6 5 と内蔵延設部材 3 3 との間を分離する仕切り部材となっている。回転体 6 1 と接続口金 5

50

8 との間には、回転ギア 6 3 が位置するギア配置空洞 6 4 が形成されている。挿入本体 1 3 (挿入部 2) の内部及び操作部 3 の内部には、線状部材 8 3 が延設されている。線状部材 8 3 の一端は、部材挿入部 7 2 に装着されるモータ 7 5 に接続されている。なお、本実施形態では、第 1 の実施形態と異なり、チャンネルチューブ 6 9 が設けられておらず、チャンネル 7 3 が形成されていない。

【0125】

線状部材 8 3 の他端には、回転ギア 6 3 と線状部材 8 3 との間を接続するギア接続部 1 3 1 が設けられている。ギア接続部 1 3 1 は、ギア配置空洞 6 4 で回転ギア 6 3 と線状部材 8 3 との間を接続している。また、ギア接続部 1 3 1 は、弾性部材 1 3 2 を介して接続口金 5 8 に取付けられている。弾性部材 1 3 2 によってギア接続部 1 3 1 と接続口金 5 8 との間を水密に保つことにより、ギア配置空洞 6 4 から挿入本体 1 3 の内部への液体の流入が防止される。

10

【0126】

ここで、弾性部材 1 3 2 は、回転体 6 1 と接続口金 5 8 との間を水密に保つ第 1 の実施形態の弾性部材 6 2 に比べ、小さい。このため、装着ユニット 2 5 が回転する際に、ギア接続部 1 3 1 と弾性部材 1 3 2 との間の摩擦は、第 1 の実施形態で回転体 6 1 と弾性部材 6 2 との間に発生する摩擦に比べ、小さい。このため、第 1 の実施形態に比べ、装着ユニット 2 5 を回転させる際の駆動力を小さくすることが可能となる。

【0127】

また、チューブ基端部 2 9 では、基端側隙間減少部 9 2 により、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 がなくなる、又は、隙間 9 0 がチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少する。また、回転体 6 1 が接続口金 5 8 に対して回転する。このため、装着ユニット 2 5 が回転した際に、チューブ基端部 2 9 及び回転体 6 1 と第 3 の外表面部 1 2 9 との間に摩擦が発生し易い。そこで、本実施形態では、接続口金 5 8 を設けることにより、第 3 の外表面部 1 2 9 の摩擦に対する強度を高くしている。このため、装着ユニット 2 5 が回転する際に発生する摩擦により、第 3 の外表面部 1 2 9 が損傷し難い。

20

【0128】

また、金属製の接続口金 5 8 (第 3 の外表面部 1 2 9) は、第 1 の蛇管部 (第 3 の管状部) 1 8 及び第 2 の蛇管部 1 9 (第 4 の管状部) より可撓性の低い蛇管接続部 2 3 (第 2 の接続管部) に位置している。蛇管接続部 2 3 は、長手軸 C に垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、接続口金 5 8 の品質を保ち易い。

30

【0129】

そこで、上記構成の内視鏡 1 では、第 1 の実施形態と同様の効果に加えて、以下の効果を奏する。すなわち、内視鏡 1 のチューブ先端部 2 8 では、先端側隙間減少部 9 1 により、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 がなくなる、又は、隙間 9 0 がチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少する。このため、装着ユニット 2 5 が回転した際に、チューブ先端部 2 8 と第 2 の外表面部 1 2 8 との間に摩擦が発生し易い。そこで、挿入本体 1 3 の第 2 の外表面部 1 2 8 は、第 1 の外表面部 1 2 7 より摩擦に対する強度が高くなっている。したがって、装着ユニット 2 5 が回転する際に発生する摩擦による第 2 の外表面部 1 2 8 の損傷を、有効に防止することができる。

40

【0130】

また、内視鏡 1 のチューブ基端部 2 9 では、基端側隙間減少部 9 2 により、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 がなくなる、又は、隙間 9 0 がチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少する。また、回転体 6 1 が接続口金 5 8 に対して回転する。このため、装着ユニット 2 5 が回転した際に、チューブ基端部 2 9 及び回転体 6 1 と第 3 の外表面部 1 2 9 との間に摩擦が発生し易い。そこで、挿入本体 1 3 の第 3 の外表面部 1 2 9 は、第 1 の外表面部 1 2 7 より摩擦に対する強度が高くなっている。このため、装着ユニット 2 5 が回転する際に発生する摩

50

擦による第3の外表面部129の損傷を、有効に防止することができる。

【0131】

また、内視鏡1では、ギア接続部131により、ギア配置空洞64で回転ギア63と線状部材83との間が接続されている。また、ギア接続部131は、弾性部材132を介して接続口金58に取付けられている。弾性部材132によってギア接続部131と接続口金58との間を水密に保つことにより、ギア配置空洞64から挿入本体13の内部への液体の流入を防止することができる。

【0132】

また、内視鏡1では、弾性部材132は、回転体61と接続口金58との間を水密に保つ第1の実施形態の弾性部材62に比べ、小さい。このため、装着ユニット25が回転する際に、ギア接続部131と弾性部材132との間の摩擦が小さくなる。したがって、装着ユニット25を回転させる際の駆動力を小さくすることができる。

10

【0133】

また、内視鏡1では、金属製の継外皮125（第2の外表面部128）は、能動湾曲部（第1の管状部）16及び受動湾曲部17（第2の管状部）より可撓性の低い湾曲管接続部21（第1の接続管部）に位置している。湾曲管接続部21は、長手軸Cに垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、継外皮125の品質を容易に保つことができる。また、金属製の接続口金58（第3の外表面部129）は、第1の蛇管部（第3の管状部）18及び第2の蛇管部19（第4の管状部）より可撓性の低い蛇管接続部23（第2の接続管部）に位置している。蛇管接続部23は、長手軸Cに垂直な方向への外力の作用によって湾曲しない。このため、接続口金58の品質を容易に保つことができる。

20

【0134】

（第3の実施形態の変形例）

なお、第3の実施形態では、継外皮125により第2の外表面部128が形成されているが、これに限るものではない。例えば、第1の変形例として図19に示すように、湾曲部外皮45の外周部に、金属製のリング135を固定してもよい。この場合、リング135により、第1の外表面部127より摩擦に対する強度が高い第2の外表面部128が形成される。

【0135】

また、第2の変形例として図20に示すように、挿入部2は、隙間がない状態でチューブ先端部28が固定される回転体（第1の回転体）101を備えてもよい。本変形例では、回転体101は、第2の外表面部128の外周方向側に位置している。装着ユニット25が回転した際に、チューブ先端部28及び回転体101と第2の外表面部128との間に摩擦が発生し易い。そこで、本変形例では、第2の外表面部128の摩擦に対する強度を、第1の外表面部127より高くしている。このため、装着ユニット25が回転する際に発生する摩擦により、第2の外表面部128が損傷し難い。

30

【0136】

また、装着ユニット25が回転した際に、チューブ基端部29と第3の外表面部129との間に摩擦が発生し易い。そこで、本変形例では、第3の外表面部129の摩擦に対する強度を、第1の外表面部127より高くしている。このため、装着ユニット25が回転する際に発生する摩擦により、第3の外表面部129が損傷し難い。

40

【0137】

（第4の実施形態）

次に、本発明の第4の実施形態について、図21及び図22を参照して説明する。第4の実施形態は、第1の実施形態の構成を次の通り変形したものである。なお、第1の実施形態と同一の部分については同一の符号を付して、その説明は省略する。

【0138】

図21は、蛇管接続部23の近傍での挿入部2及び装着ユニット25の構成を示す図である。図22は、図21の22-22線断面図である。図21及び図22に示すように、

50

本実施形態では、挿入部 2 は、挿入本体 1 3 に対して長手軸 C 回りに回転する回転体 6 1 を備えない。また、装着ユニット 2 5 のチューブ基端部 2 9 に、ギアユニット 1 1 0 の回転ギア 6 3 と噛合うギア部 1 3 7 が設けられている。このような構成にすることにより、挿入部 2 の外周部に回転ギア 6 3 が位置し、挿入部 2 の外周部にギア配置部 1 3 8 が設けられる。すなわち、装着ユニット 2 5 を挿入部 2 から取外した状態では、回転ギア 6 3 が外部に露出している。

【 0 1 3 9 】

また、回転ギア 6 3 には、ギア軸 R に沿って溝状部 1 3 9 が設けられている。溝状部 1 3 9 は、ギア軸 R に垂直な断面において、略六角形状に形成されている。

【 0 1 4 0 】

チューブ基端部 2 9 では、基端側隙間減少部 9 2 により、装着ユニット 2 5 と接続口金 5 8 又は回転ギア 6 3 との間で、隙間 9 0 をなくす又は隙間 9 0 をチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少させている。すなわち、基端側隙間減少部 9 2 により、装着ユニット 2 5 と挿入部 2 の外周部又は挿入部 2 の外周部に取付けられる部材との間で、隙間 9 0 がなくなる、又は、隙間 9 0 がチューブ本体 2 6 の内周方向側の部位より減少する。また、基端側隙間減少部 9 2 により、挿入部 2 の外周部に取付けられる回転ギア 6 3 に隙間 9 0 がない状態でチューブ基端部 2 9 が噛合う。したがって、ギア軸 R 回りに回転ギア 6 3 が回転することにより、装着ユニット 2 5 が挿入本体 1 3 に対して長手軸 C 回りに回転する。

【 0 1 4 1 】

挿入部 2 の外周部のギア配置部 1 3 8 からは、接続パイプ 6 7、チャンネルチューブ 6 8 及び部材挿入部 7 2 により、チャンネル 7 3 が規定されている。すなわち、部材挿入部 7 2、チャンネルチューブ 6 8 及び接続パイプ 6 7 がチャンネル 7 3 を規定するチャンネル規定部となっている。チャンネル 7 3 は、操作部 3 の部材挿入口 7 1 からギア配置部 1 3 8 まで延設されている。すなわち、チャンネル 7 3 は、操作部 3 の外表面から操作部 3 の内部及び挿入部 2 (挿入本体 1 3) の内部を通して延設されている。そして、回転ギア 6 3 が位置するギア配置部 1 3 8 において、挿入部 2 の外周部から開口している。

【 0 1 4 2 】

本実施形態では、挿入部 2 の外周部に回転ギア 6 3 が位置し、挿入部 2 の外周部にギア配置部 1 3 8 が設けられる。このため、装着ユニット 2 5 を挿入部 2 から取外した状態では、回転ギア 6 3 が外部に露出する。したがって、回転ギア 6 3 の洗浄、消毒を行い易い。

【 0 1 4 3 】

また、チャンネル 7 3 が、操作部 3 の外表面から挿入部 2 の外周部のギア配置部 1 3 8 まで延設している。すなわち、チャンネル 7 3 の両端が、挿入部 2 及び操作部 3 の外部に対して開口している。このため、チャンネル 7 3 に液体が流入した場合も、チャンネル 7 3 に液体が滞留し難い。したがって、挿入本体 1 3 の内部のチャンネル 7 3 への液体の流入を防止する必要がない。本実施形態では、防水用の弾性部材が設けられていないため、装着ユニット 2 5 が回転する際に、線状部材 8 3 及びチューブ基端部 2 9 に作用する摩擦が小さくなる。このため、装着ユニット 2 5 を回転させる際の駆動力を小さくすることが可能となる。したがって、駆動部材であるモータ 7 5 及び線状部材 8 3 の小型化、及び、内視鏡 1 自体の小型化が実現される。

【 0 1 4 4 】

そこで、上記構成の内視鏡 1 では、第 1 の実施形態と同様の効果に加えて、以下の効果を奏する。すなわち、内視鏡 1 では、挿入部 2 の外周部に回転ギア 6 3 が位置し、挿入部 2 の外周部にギア配置部 1 3 8 が設けられる。このため、装着ユニット 2 5 を挿入部 2 から取外した状態では、回転ギア 6 3 が外部に露出する。したがって、回転ギア 6 3 の洗浄、消毒を容易に行うことができる。

【 0 1 4 5 】

また、チャンネル 7 3 が、操作部 3 の外表面から挿入部 2 の外周部のギア配置部 1 3 8

10

20

30

40

50

まで延設している。すなわち、チャンネル 7 3 の両端が、挿入部 2 及び操作部 3 の外部に対して開口している。このため、チャンネル 7 3 に液体が流入した場合も、チャンネル 7 3 に液体が滞留し難い。したがって、挿入本体 1 3 の内部のチャンネル 7 3 への液体の流入を防止する必要がない。防水用の弾性部材が設けられていないため、装着ユニット 2 5 が回転する際に、線状部材 8 3 及びチューブ基端部 2 9 に作用する摩擦が小さくなる。このため、装着ユニット 2 5 を回転させる際の駆動力を小さくすることができる。したがって、駆動部材であるモータ 7 5 及び線状部材 8 3 の小型化、及び、内視鏡 1 自体の小型化を実現することができる。

【 0 1 4 6 】

(第 4 の実施形態の変形例)

第 4 の実施形態の第 1 の変形例として、図 2 3 に示すように回転ギア 6 3 を備えるギアユニット 1 1 0 に、駆動ユニット 1 1 3 又は手動回転ユニット 1 1 7 が選択的に接続されてもよい。駆動ユニット 1 1 3 は、駆動部材であるモータ 7 5 と、第 1 の線状部材 8 3 A とを備える。装着部である部材挿入部 7 2 にモータ 7 5 が装着された状態では、第 1 の線状部材 8 3 A は、操作部 3 の内部及び挿入部 2 の内部を通して回転ギア 6 3 に向かって延設される。また、駆動ユニット 1 1 3 は、ギア配置部 1 3 8 で回転ギア 6 3 と第 1 の線状部材 8 3 A との間を接続する第 1 の切替え接続部 1 4 1 A を備える。図 2 4 は、図 2 3 の 2 4 - 2 4 線断面図である。図 2 4 に示すように、第 1 の切替え接続部 1 4 1 A は、ギア軸 R に垂直な断面において、回転ギア 6 3 の溝状部 1 3 9 に対応する略六角形状に形成されている。第 1 の切替え接続部 1 4 1 A が溝状部 1 3 9 に挿入されることにより、回転ギア 6 3 と第 1 の線状部材 8 3 A との間が接続される。これにより、ギアユニット 1 1 0 と駆動ユニット 1 1 3 とが接続される。

【 0 1 4 7 】

手動回転ユニット 1 1 7 は、手動回転部材 1 1 8 と、第 2 の線状部材 8 3 B とを備える。装着部である部材挿入部 7 2 に手動回転部材 1 1 8 が装着された状態では、第 2 の線状部材 8 3 B は、操作部 3 の内部及び挿入部 2 の内部を通して回転ギア 6 3 に向かって延設される。また、手動回転ユニット 1 1 7 は、ギア配置部 1 3 8 で回転ギア 6 3 と第 2 の線状部材 8 3 B との間を接続する第 2 の切替え接続部 1 4 1 B を備える。第 2 の切替え接続部 1 4 1 B は、第 1 の切替え接続部 1 4 1 A と同様に、ギア軸 R に垂直な断面において、回転ギア 6 3 の溝状部 1 3 9 に対応する略六角形状に形成されている。第 2 の切替え接続部 1 4 1 B が溝状部 1 3 9 に挿入されることにより、回転ギア 6 3 と第 2 の線状部材 8 3 B との間が接続される。これにより、ギアユニット 1 1 0 と手動回転ユニット 1 1 7 とが接続される。

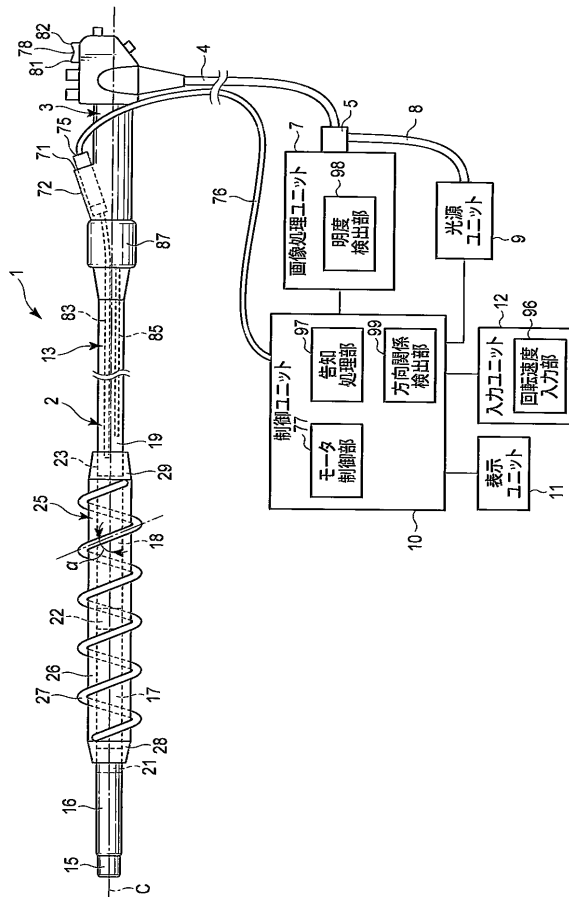
【 0 1 4 8 】

本変形例では、回転ギア 6 3 を備えるギアユニット 1 1 0 に、駆動ユニット 1 1 3 又は手動回転ユニット 1 1 7 が選択的に接続される。このため、モータ 7 5 に不具合が生じた場合には、回転ギア 6 3 から駆動ユニット 1 1 3 の第 1 の切替え接続部 1 4 1 A を取外し、部材挿入部 7 2 から駆動ユニット 1 1 3 を取外す。そして、手動回転部材 1 1 8 を部材挿入部 7 2 に装着し、第 2 の切替え接続部 1 4 1 B により第 2 の線状部材 8 3 B と回転ギア 6 3 との間を接続する。そして、手動回転部材 1 1 8 で回転操作を行う。これにより、装着ユニット 2 5 が回転し、長手軸 C に平行な方向への推進力が挿入部 2 に作用する。以上のようにして、本変形例の内視鏡 1 では、駆動部材であるモータ 7 5 の不具合に適切に対応することが可能である。また、駆動ユニット 1 1 3 の第 1 の線状部材 8 3 A の不具合にも、適切に対応することが可能である。

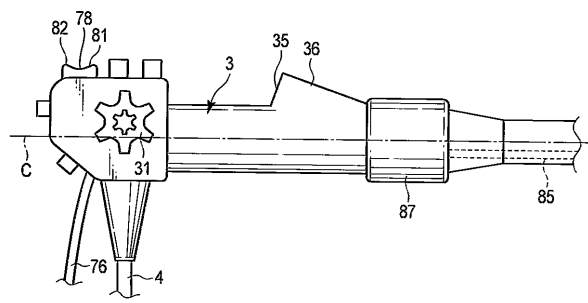
【 0 1 4 9 】

以上、本発明の実施形態について説明したが、本発明は前記の実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々の変形ができることは勿論である。

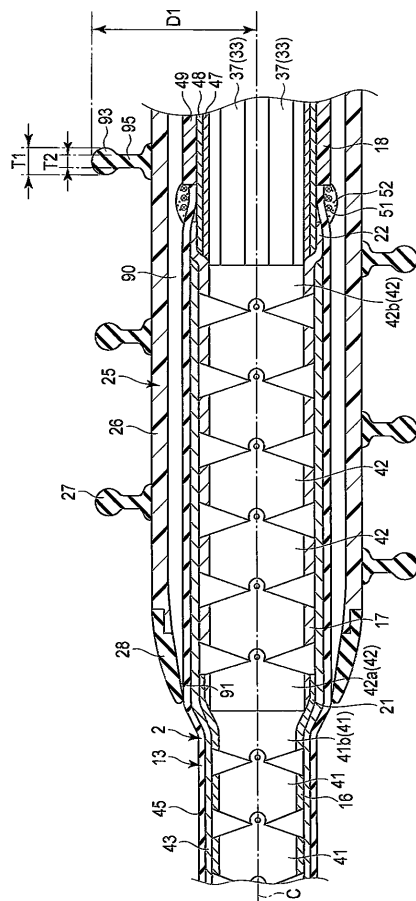
【図 1】



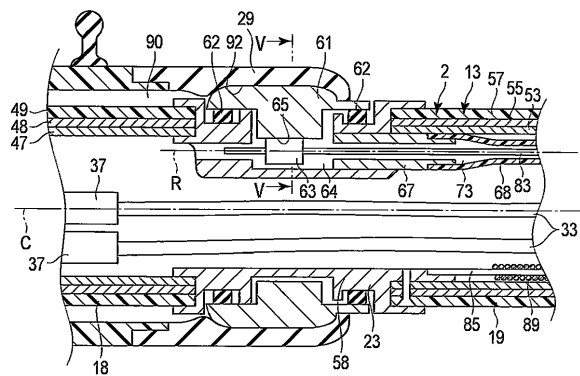
【図 2】



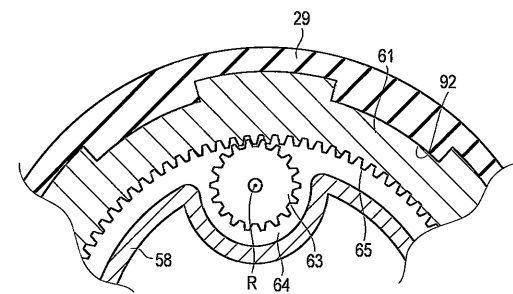
【図 3】



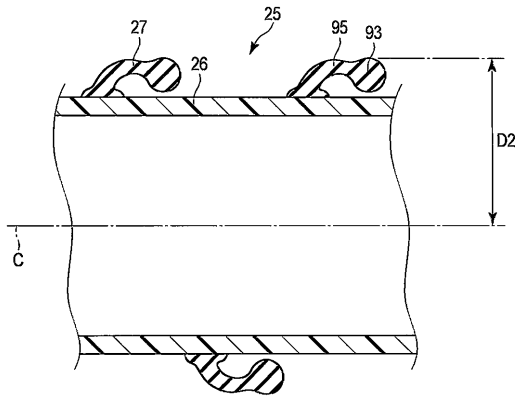
【図 4】



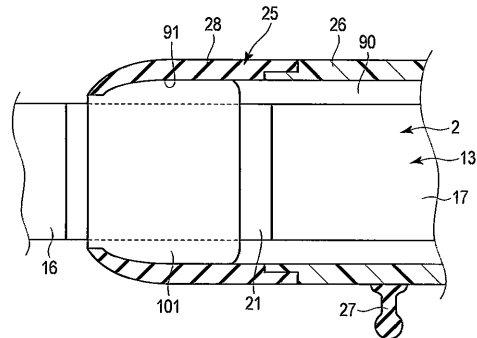
【図 5】



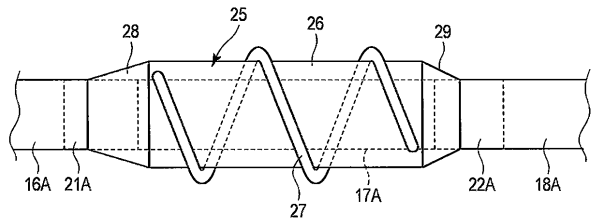
【図 6】



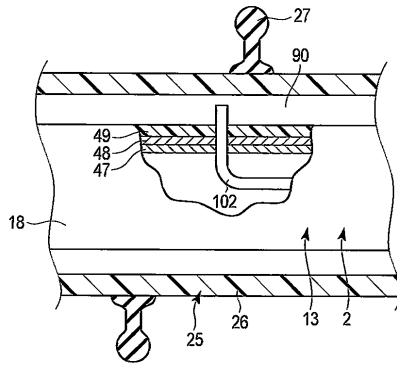
【図 7】



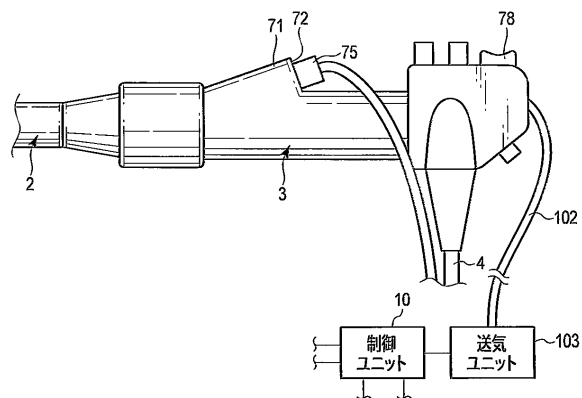
【図 8】



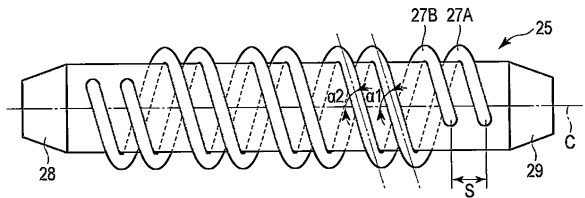
【図 9 A】



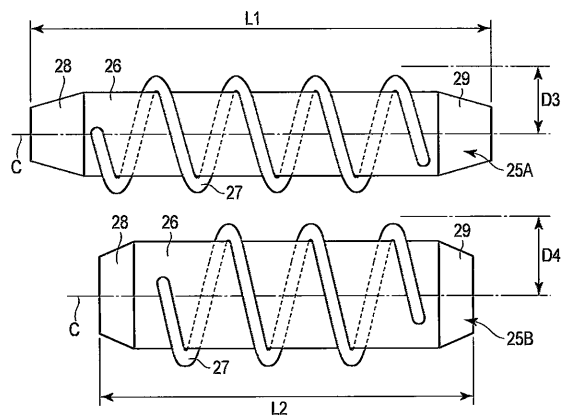
【図 9 B】



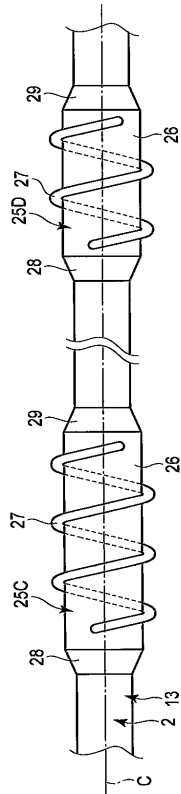
【図 1 1】



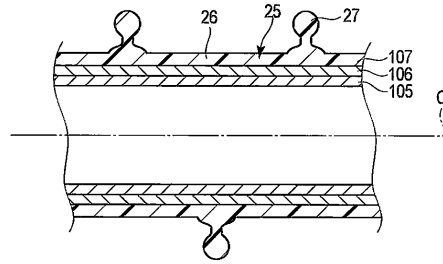
【図 1 0】



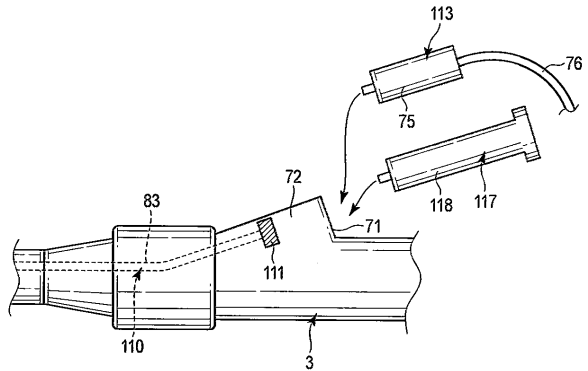
【図 1 2】



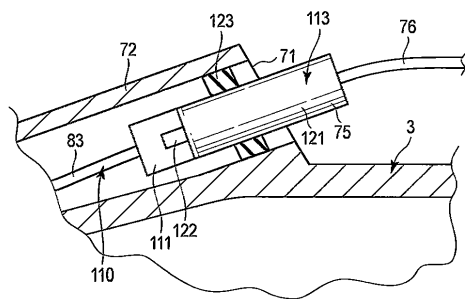
【図 1 3】



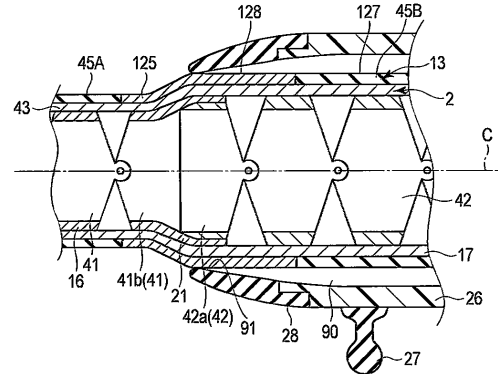
【図 1 4】



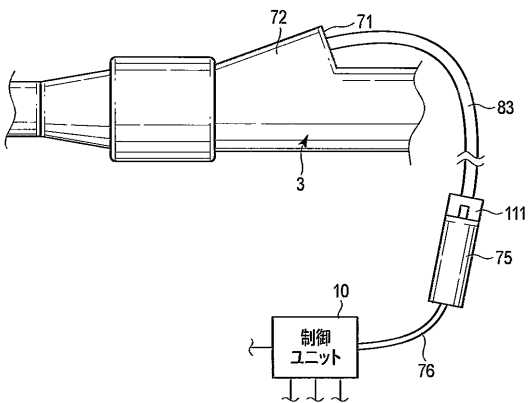
【図 1 5】



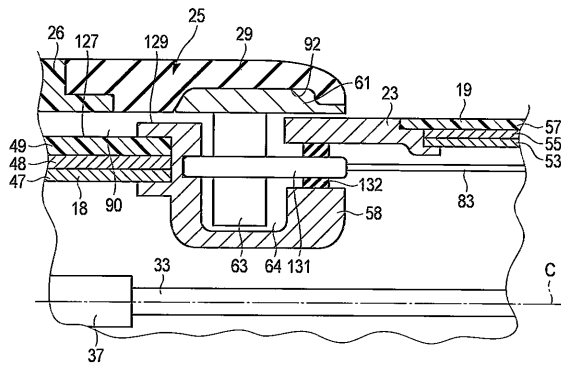
【図 1 7】



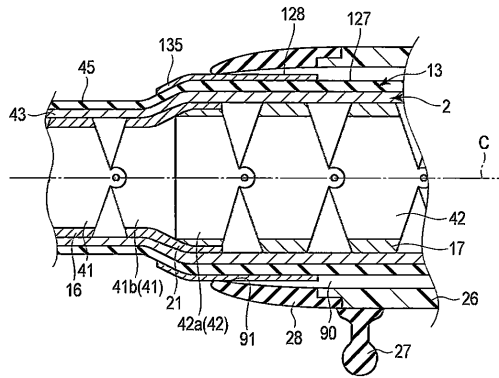
【図 1 6】



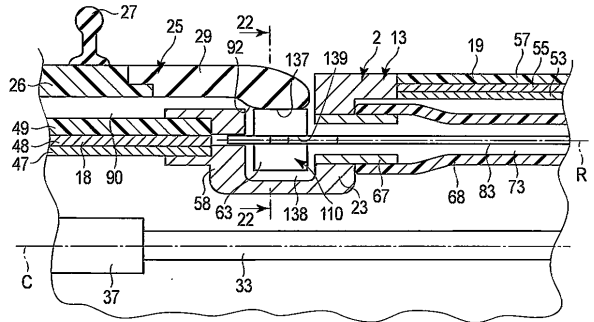
【図 1 8】



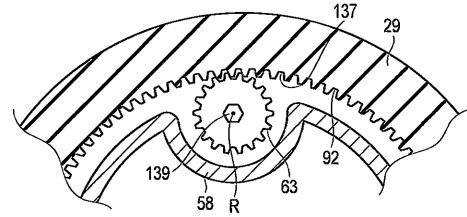
【図 19】



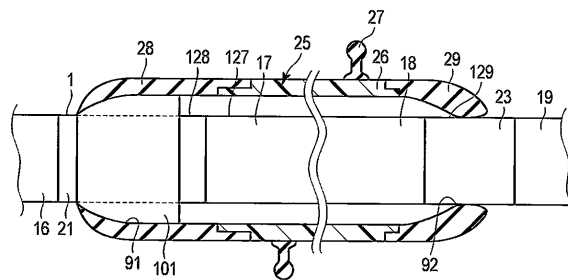
【図 21】



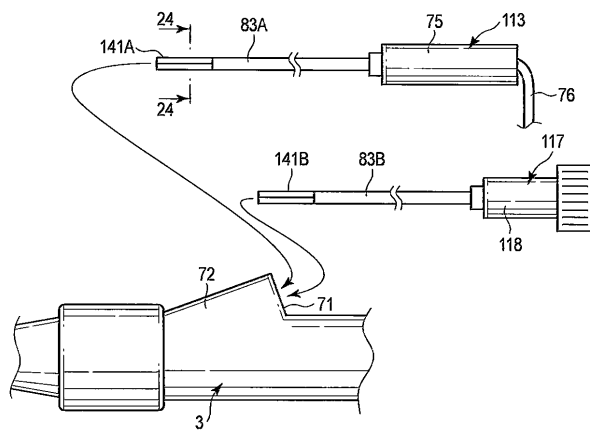
【図 22】



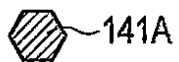
【図 20】



【図 23】



【図 24】



フロントページの続き

(74)代理人 100119976
弁理士 幸長 保次郎

(74)代理人 100153051
弁理士 河野 直樹

(74)代理人 100140176
弁理士 砂川 克

(74)代理人 100158805
弁理士 井関 守三

(74)代理人 100172580
弁理士 赤穂 隆雄

(74)代理人 100179062
弁理士 井上 正

(74)代理人 100124394
弁理士 佐藤 立志

(74)代理人 100112807
弁理士 岡田 貴志

(74)代理人 100111073
弁理士 堀内 美保子

(74)代理人 100134290
弁理士 竹内 将訓

(72)発明者 森山 宏樹
日本国東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目4番2号 オリジナルメディカルシステムズ株式会社内

審査官 原 俊文

(56)参考文献 国際公開第2009/143077(WO, A1)
特表2009-501555(JP, A)
国際公開第2006/123590(WO, A1)
特表2013-516296(JP, A)

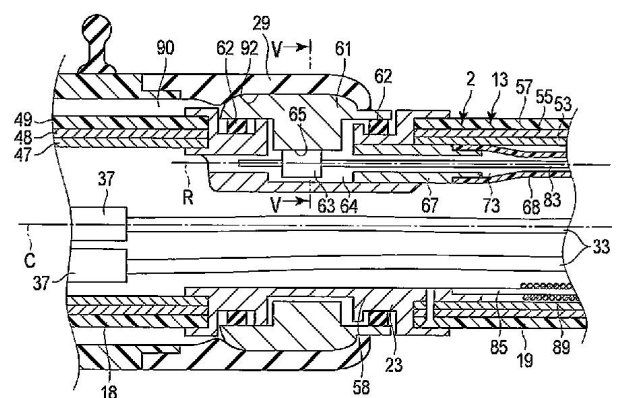
(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A61B 1/00
G02B 23/24

专利名称(译)	安装单元和内窥镜		
公开(公告)号	JP5326054B2	公开(公告)日	2013-10-30
申请号	JP2012543832	申请日	2011-06-17
[标]申请(专利权)人(译)	奥林巴斯医疗株式会社		
申请(专利权)人(译)	オリンパスメディカルシステムズ株式会社		
当前申请(专利权)人(译)	オリンパスメディカルシステムズ株式会社		
[标]发明人	森山宏樹		
发明人	森山 宏樹		
IPC分类号	A61B1/00 G02B23/24		
CPC分类号	A61B1/00135 A61B1/00073 A61B1/00142 A61B1/00154 A61B1/00156 A61B1/0016 A61B1/0052 A61B1/0055 A61B1/008 A61B1/2733 A61B1/31		
FI分类号	A61B1/00.320.B G02B23/24.A		
代理人(译)	中村诚 河野直树 井上 正 冈田隆		
优先权	61/473372 2011-04-08 US		
其他公开文献	JPWO2012137363A1		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

内窥镜包括插入部分，该插入部分包括沿纵向轴线延伸并插入管腔的插入主体，设置在插入部分的近侧方向侧的操作部分，以及包括沿纵向螺旋延伸的翅片部分的连接单元轴线设置在插入部分的外周方向侧，以相对于插入主体可绕纵向轴线旋转。内窥镜包括：旋转齿轮，其围绕齿轮轴线旋转以使附接单元绕纵向轴线旋转；以及内置延伸构件，其从插入主体的内部延伸，并且操作部分的内部从远端部分延伸。插入部分沿纵向轴线。插入主体包括将内置延伸构件与旋转齿轮分开的分隔构件。

【图4】



【图5】